

# ニュース・レター

N025

2018年8月号 第17回全国大会特集号

おやじ  
日本

第17回

認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会

## 18歳はもう大人！？

パネルディスカッション

18歳で大人扱い、激しいグローバル競争を避けられない時代に生きる子どもたちに私たちは何を伝えるか

平成30年6月24日(日)  
午後1時30分～午後4時  
明治神宮会場会館  
(渋谷区代々木神園町1-1)



## 第17回おやじ日本全国大会を終えて



「今回はこれまでで一番面白かった。考えさせられた。」といった感想がたくさん寄せられ、準備してきた皆がほっとしています。

600名近い方々にご参加くださり、熱心にお聞きいただいたことに、パネラーの皆さんもご満足のようでした。

大会の冒頭にお話ししましたが、総監督を引き受けてくださった星野仙一さんや長年にわたり総合司会を担ってくださった早川信夫さんが亡くなられ、残念な思いでいっぱいです。御冥福をお祈りします。

パネルディスカッションのほぼ全体を今回のニューズレターにまとめました。とても要約しきれものではないぐらい、それぞれの発言が重かったからです。私も何度も読み返したほどです。パッケン、マッケンはじめ、パネラーの皆さんのプライベートにまで踏み込んでしまいましたが、それだけに説得力のある議論になったと思います。

そして、大学生と高校生6名が壇上で落ち着いて積極的に議論に加わってくれ、この国の将来に明るいものを感じさせてくれました。

おやじ日本は、「未来教室」という、企業の方々の学校での出前授業を実現する手助けを、この6年来続けております。そのコンセプトは、大人が大事だと思うことを子どもたちに伝える責任が大人にはあるというものです。今回の大会もその流れにあり、18歳成人の動きを捉えて、私たちの子育て、教育に盲点はないのか、時代の変化を踏まえて考え直し、勘所をよく把握して、子どもたちに接していきたいものだと考えたのです。

子どもたちをめぐるテーマはいろいろですが、大人がしっかりしてこその子育てです。私たちは、もとより微力ですが、これからもそのために貢献したいと考えております。

これまでの皆様の御支援に感謝を申し上げますとともに、今後ますますの御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

### パネルディスカッション

総合司会 宮本 隆治氏(アナウンサー)

インタビュー「日本の内と外を語る」

出演者 パッケンマッケン(タレント)

小山 裕介氏(コントロール・リクス・グループ(株)日本総代表兼シニア・パートナー)

山本 恵理氏(パラパワーリフティング選手)

竹花 豊(おやじ日本理事長 元東京都副知事)

「私たちはこう思う！」

杉山 敬洋さん(東京都立日比谷高校生)

遠藤 未生さん(東京都立日比谷高校生)

東條 太河さん(東京芸術大学音楽部付属音楽高等学校)

橘和 美憂さん(東京芸術大学音楽部付属音楽高等学校)

川上 智也さん(慶應義塾大学生)

青木 優さん(慶應義塾大学生)

「大人たちにも言わせて欲しい！」

長谷部 健氏(渋谷区長)

武内 彰氏(東京都立日比谷高校校長)

長坂 敏史(おやじ日本監事 十文字学園女子大学名誉教授)

## ◆はじめに

竹花 今日のパネルディスカッションの構成はどうかということですが、三部構成です。一部は、今日お招きをしたパッケンマクソン等々に直撃インタビューをして、考えを聞いてみようと思っています。そのあと、今日はこれまでの「おやじ日本」の大会と少し異なりまして、現役の高校生や大学生に来てもらって言いたいことを言ってもらおうと考えております。そのうえで、3人の大人の方々にもお話しただこうと、こういう構成で成り立っています。筋書きはございません。宮本さん、是非よくまとめていただくようお願いいたします。

宮本 わかりました。なるほど。では私は鵜飼みたいなものですね。皆さんがどこに行くかわからないのをまとめる。ありがとうございます。

ではゲストの皆さんに登場していただきましょう。山本さんからどうぞお入りいただいて、今日のパネリストの皆さんです。(拍手)そしてスペシャルゲスト、パッケンマクソンのお二人、どうぞ。(拍手)お二人はアメリカでも英語でステージを務めていらっしゃいますので、今日は楽しみです。改正民法が成立しまして、成人の定義が変わりました。ただ申し上げましたように課題も山積です。ここで竹花さん、どういうふうに18歳、大人になるのか、その問題点はどのようなものなのか、ちょっとおさらいをお願いいたします。

竹花 皆さん、お手元に「資料」というペーパーがあるかと思



思いますので、お出しいただいて、それを基に御説明をしたいと思

います。(p28~p32) 1ページ目、「成人年齢の引き下

げ~18歳成人へ~」です。2015年6月には公職選挙法が改正され、翌年の2016年7月には国政選挙において初めて18歳選挙権が行使されました。そして、今年6月には改正民法が成立しました。民法改正のポイントは、成人年齢、一人で契約をすることができ、親権に服しなくてもいい年齢を18歳に引き下げることです。飲酒、喫煙、公営ギャンブルについては別の法律で20歳未満禁止を維持することになっています。クレジットカードを18歳になれば親の承諾なくしてつ

くることができることとなりますが、18歳の子どもがトラブルを起こさないかということも議論になっています。4年後の2022年の施行をにらみながら、そうした点についてもさまざまな議論になっていこうかと思

います。2ページです。読売新聞がこの問題についてアンケート調査をしました。見出しだけを御覧いただいてもわかりますように、世論も割れています。18歳成人は反対だという方が56%を占めるというアンケート調査です。にもかかわらず民法改正案は成立しましたが、反対の理由は、18歳には大人の自覚がない、あるいは経済的に自立していない、それなのに若くして権利を与えていくのはどんなものかという議論、あるいは懸念があることが示されています。

その次の3ページ、「18歳成人」アンケート調査結果があります。これは毎年11月に「渋谷くみんの広場」が行われていますが、その場で私どもが200人アンケート調査をさせていただいたものです。

18歳選挙権についてどのように思うか、18歳成人となった場合に関連して、たとえば飲酒、喫煙、クレジットカード等の契約等についても少し議論があると思うが、どう思うかといったようなことです。その中では、飲酒も喫煙も18歳はだめという意見が圧倒的に多く、クレジットカードについても懸念を示す意見が非常に強いことがうかがわれます。そういうアンケート調査もあって、私どもは今回の大会のテーマをやはりこれについて少し掘り下げてみたいと考えました。

4ページ、外国はこの問題をいったいどういうふうにとらえているのだろうかということで、カナダ人で今日本で仕事をしている方にお話を伺いました。

そうすると、カナダの中学校では生徒が自分の考えを話すように求められる。高校から大学に行くときに、ストレートに大学に進んだりせず、一定期間空くこともよくある。選択肢は広く、それぞれが自立し選んで進んでいくとおっしゃっていました。

またその下に早稲田大学の名誉教授、加藤諦三先生は教育問題の専門家ですが、彼はアメリカの場合、小・中学校では、「あなたはどう思う?」ということが問われるし、授業の中で思ったことを言い、議論しても怒られることはない。あるいはみんな小さなころから「At your own risk!」、(あなたの責任で)、「It's up to you!」、(それはあなた次第)と学校でも家庭でも言われて育っていく。そういう教育が行われている社会である。日本とは大きく異なる

る。そのことが早く成熟した大人にするということに大きなかわりがあると思いますということをお教えいただきました。

5 ページ、これは中学生・高校生の生活と意識調査を財団法人日本青少年

研究所が長くやっておられるものですが、その最新のもの、と言っても実は 2009 年ですが、その調査結果を示したものです。

表 1 は調査方法ですが、かなりの数のサンプル数を抱えていますので、大方の傾向は表わしているものと考えられます。その結果を御覧いただきます。

まず「進路について、自分で決められる。親は干渉しない」という問いに対して、中学生で「全くそう思う」と考えたのは、日本では 17.3% ですが、アメリカでは 63% です。要は進路について自分で決められるとアメリカの中学生は圧倒的に高くそう思っている。高校生についても同様の傾向があることがわかっていくと思います。

次に「私は人並みの能力がある」という問いがあります。「とてもそう思う」、要するに人並みの能力がある、あるいはまあまあそうだよと思っている人の割合は、日本ではそれぞれ 13%、あるいは 40.4% ですが、アメリカは 55.6%、あるいは 23.3% です。中国も 49.4%、35.3% と、この傾向は高校生についても同様です。

衝撃を受けるのは、「自分はダメな人間だと思う」という問いについての意識調査で、「とてもそう思う」、「まあそう思う」という中学生が、日本では 20.8%、35.2%、要は 56% にものぼる中学生が、自分はダメな人間だと思っている。それに対してアメリカでは 4.7%、9.5%、中国でも 3.4%、7.7% という状況です。高校生についても同様な状況があるということです。

これは日本の子育て、子どもたちが自信を持たないように、自分はダメな人間だと思えるように教育しているのかと思ってしまうような中身になっています。

以上のようなことを会場の皆さん方と私どもパネラーとが少し共有をしながら、これからこの問題を考えていけばいいのではないかと御紹介いたしました。



宮本 竹花さん、ありがとうございました。そもそもなぜ 18 歳で大人になるのか。生産年齢人口、働き手の中心である 15~64 歳までのことを言いますが、少子高齢化で日本の人口がどんどん減ってきました。2015

年には 1 億 2700 万人の日本の人口も、45 年後、2060 年には 9284 万人、なんと 3400 万人も減ってしまいます。少子高齢化が進んでおり、このままだと生産に携わる生産年齢人口がどんどん減っていく。そこで若者の社会参加を早めれば日本が活性化するのではないかとということで、政府はこの 18 歳を大人とすると決めたと解釈してよろしいのでしょうか。

竹花 そこはよくわかりません。やはり選挙権の問題がまずあったのだと思います。

宮本 選挙権、18 歳にもうすでにになっていますね。

竹花 そうなんです。その比較衡量からすれば、当然権利だけ 18 歳に与えて、ほかの義務といった面についてももう少しバランスを取る必要があるだろうという議論は当然起こるところで、これを決めた政治家の意図は、必ずしもそう純粋なものではなかったのではないかと感じもしないではありませんが。

## ◆ インタビュー 「日本の内と外を語る」

宮本 それでは、このあとは大人の皆さんに竹花さんからインタビューをしていただきましょう。

竹花 まずパクン、今いろいろ紹介しましたがけれども、日本とアメリカでは子育てについての考え方、あるいは実際のあり方はかなり大きな差があるのではないかとお思います。それは本当でしょうか。

パクン 本当です。今のデータは、たぶん日常生活でもみんな目の当たりにしているものだと思うのです。今データを見て、「あら、日本人は自分がダメな人間だと思っているのが過半数を占めるんだ」と僕が驚いたら、マクンが「謙遜ですかね」と言っていたんだけど、まあ謙遜という面もあるとは思いますが。

さっきの演奏した高校生 2 人、ちょっとマイクを取ってください。ヴァイオリン、本当にうまいですね。

**高校生(東條)** ありがとうございます。

**バックン** ああ、ちゃんと受け取ったんだ。「いやいやいや」と言ってくれるかなと思ったのですけれども！

**マックン** そこで謙遜してくれると、オチ的にちょうどよかったですけれども。

**バックン** そうなんですよ。謙遜してない。

**宮本** 彼は 2 年、オーストリアに留学していたんです。

**バックン** 海外の経験がある。それでちょっと反応が変わったんですかね。

**マックン** だから自己主張ができる。

**バックン** 基本的に日本人はほめると、「いやいやいや」と言ってしまうのです。それがどんなにうまくて、本当にほめられて当然の才能を持っていても、「いやいや、とんでもないです。まだまだです」と言ったりします。これは謙遜という文化で、僕は好きです。腰が低くて接しやすい国民です。ただ、自分がずっと謙遜していると自己暗示みたいな効果があって、すり込んでしまうと思うんです。本当に謙遜していると、本当にダメ人間だと思ってしまうのではないかと思うんです。

今みたいにほめられて素直に「ありがとう」、「あなたはできる」、「頑張ります」、「できる」というように子どもも育てて、大人としてもお手本になっていただきたいなと思います。アメリカ人はできなくても「できる」と言う！

**マックン** そうなんです。

**バックン** 「お前、ダメだな」、「なわけねえよ」と言います。

**宮本** そうやって自分を高めていく。

**バックン** そう。日本は自信欠如している国で、アメリカは自信過剰な国です。どこかにちょうどいい具合があるはずですよ。アメリカ人はちょっとできると思い込みすぎているという面もあります。

**マックン** バックンを見ていてすごいと思うのは、たとえばネタ合わせをしているときに、仕事の依頼が来て、「ダンスができるか？」と聞かれて、バックンはダンス出来ないのに電話の先に「ああ、できますよ」って言うんです。電話を切ったバックンに「ダンスできるの？」と言ったら「できない」って返ってきて「どうするの？」と言ったら「仕事が入ったら、それまでに何とかする」って言うんです。

**バックン** そう。日本語って結構あいまいな表現で、現在形と未来形が一緒です。「します」と言うのは毎日することなのか、今度することか、あいまいじゃないですか。だから僕が「できる」と言うと、今はできないけれども、その日までにはできるようになるという意味で言っているんです。それでだいたい何とかかなる。ときどき失敗する。

**竹花** マックン、それは一緒にやっていて心配じゃありませんか。

**マックン** もう、結構疲れますよ。本当に大丈夫かなって。でも有言実行じゃないですけれども、それを乗り越えている姿も見てるので、ああ、やっぱりアメリカ人ってすごいなというか、アメリカ人全員がそうだとは限らないと思いますけれども、バックンはすごいなと思います。

**バックン** 僕はすごいよ！

**竹花** まあまあ。(笑)アメリカでは 18 歳になると、親は子どもを放り出してしまふ。たとえ大学生になっても学費も生活費も自分で稼げと言って自立をさせようとするという話を聞きましたけれど、それは本当ですか。バックンはそうしたんですか。

**バックン** 僕も放り出された 1 人です。基本的に 18 歳になると一人前というふうに使われているから、日本と違って中・高でもアルバイトはするし、経済活動に慣れているので、万が一親が子どもの世話をまったくしなくなっても何とかできると育てられてしまふし、一人ひとはそういう目標を持って青年時代を過ごすのです。俺は自立するぞという強い意志を持っている。それが 20 歳代、30 歳代でまだ親のすねかじりだったりしていると、アメリカでは結構恥ずかしいことです。

逆に日本では安心して親元でずっと暮らせる、その環境も僕は否定はしてないんです。子どもが学校で勉強とか部活とかに集中して一人前になった自分のタイミング出て行くという、その制度も悪くないと思います。18 歳から出て行けというのは、逆に個人差を認めていないなと思います。

**竹花** ただアメリカの若者たちは 18 歳になれば放り出されるということを覚悟したうえで、それから何とか自分でやっつけていける準備を、もう子どものころからしていくという意識の中で育っているということでしょうか。

**バックン** そのとおりです。だいたい一人ひとりがそういう意識を持って育っているというか、頑張っているのですが、できない方もいます。そういう方が親から手放されてしま

ってダメ人間になることもありますので、一律にみんなが18歳になって出て行かなければいけないというルールづくりも、僕は反対です。

**宮本** 18歳までの準備期間があって、その意識は具体的には何歳ぐらいから大人に向かっての予習が始まっていくんですか。

**パックン** 0歳じゃないですか。

**マックン** 確かに0歳から。今の0歳というのは、ちょっとピンと来たというか、それを2人で話したことがあるんですけど、たとえばアメリカ人の夫婦は、赤ちゃんを寝かしつけるときに、別室で1人で寝かせますよね。でも日本はお母さんの横で寝かせるというところが多いです。だから0歳からもう自立させているのかなというような話は以前したことがあるのを今思い出しました。

**パックン** そうなんですよ。お風呂も子ども1人で入ります。

**マックン** 赤ちゃんは1人では入らないよね。

**パックン** 赤ちゃんは入るときにおぼれる！

**竹花** マックン、たぶんそれは親が2人で生活したいからでしょう。2人でいたいからでしょう。その話は、子どもは邪魔だけなんじゃないですか。

**マックン** それは・・・どうなんですかね。

**パックン** それもあるかもしれない。親の都合でもあるし。僕は日本式で子どもと一緒に寝ているし、一緒にお風呂に入っているし、変な話、マックンとも一緒に入っているんですよ。

**竹花** そういう話はあまり聞きたくないですね。(笑)

**マックン** 入ったことないです！

**竹花** わかりました。マックンはパックンと縁あってチームを組んで、やはり日本人とアメリカ人とずいぶん違うなという感想をお持ちだと思うんですけども、ちょっと聞かせていただけますか。

**マックン** 僕もどちらかと言うと18歳で自立して、親からの仕送りも受けず、東京に出て来て1人で生活をして、最終的にお笑い芸人を目指してやってきて、それでもし、お金の困って親に「仕送りをしてください」という助けを求めたら、その時点でアウトだと思っていました。僕の実家は金物屋なんですけれど、夢に向かって挑戦はさせるけれども、もし自立できないようだったら戻ってきて金物屋の修業をして働くという選択肢もあるんだから、そっかも考

えなさいと育てられたので、だからパックンを見ていて、僕はどちらかと言うと立場は似てるなという感じがします。

**竹花** 勉強して、どこかいい大学に行つてとか、そんなことはあまりお考えになりませんでしたか。

**マックン** 最初の大学受験で滑って、そこから今の人生になった。それが悪かったか、よかったか、いまの結果は・・・まあ、良かったんじゃないのかなと思いますけれど、いろいろな挫折を乗り越えて今があるので、人生の勉強は自分なりにしたと思います。大学に行くことが全てでもないと思います。

**竹花** お笑い芸人になろうと決めたのは、何歳のときですか。

**マックン** 18、19歳ぐらいからです。僕は小学校からトランペット鼓笛隊、中学・高校は吹奏楽部、バンドもやってという、人前で何かをやるのがすごく好きで、周りの友だちとから、そんなに人前で何かやりたいんだったら、お笑いとかやってみれば？」っていう提案を受けて、ああ、お笑いとか〜確かに人を笑わせることに僕はすごく自分の幸せを感じたので、それが職業になればいいかなと思って。本格的にお笑い芸人になろうと思ったのが20歳ですね。

**竹花** お父さん、お母さんは反対しませんでしたか。

**マックン** うちの父親は、金物屋の長男で、しかも男1人として生まれて、職業を選択するという権利自体がなく、奉公に出て給料なしで1年間修業をして帰ってきて、家業を継ぎました。だけど僕の場合は兄がいて、僕は二男。母親は僕がお笑い芸人になることをあまりよくは思っていなかったんですけど、父親は「俺ができなかったこと、お前は二男として生まれてきたんだから、好きなことに挑戦してもいいぞ」と言ってくれました。そして、それはそれで、さっき言った条件つきでした。兄貴にも僕にも、別に金物屋を継ぎなさいとも言わないで、平等に機会は与えてくれたんですけども、兄貴は兄貴で、何となく使命を感じたのでしょ。いま実家の金物屋を継いでいます。

**竹花** 少なくとも自分の生きる道は自分で考えて、ある程度決めて、そして御両親にもちゃんと話をして、その了解も得ていまの道を進んできた、そんなことなのでしょうか。

**マックン** そうですね。どちらかと言うと18歳のときに、自分の道は自分で決めろというのを両親は僕にも兄にも、そして姉もいるのですが、3人同じように送り出してくれたと思います。

**パックン** 出身は群馬県富岡市で。

**マクン** 富岡製糸場から歩いて 3 分の金物屋なので、行ってみてください。(笑) パクンマクンのポスターが貼ってありますから、わかりやすいと思います

**パクン** でも買い物しないでください。

**マクン** 何でだよ。

**パクン** ぼったくりですよ。

**マクン** ぼったくりじゃない。(笑)・・・だから脱線しないでくれよ。

**パクン** でも意外と日本のハートなのに、プチアメリカ系の家族だね。お前を追い出して、どうぞ好きなようにって。

**マクン** いやいや、追い出してじゃないですからね。

**宮本** ただいつでも帰ってこいと。大人として見送るけれども、いつでも家に帰ってこいという、その温かさを感じますね。

**マクン** そうですね。だから帰ってこいというのが、何となくちょっとやさっとじゃ帰ってくるなよに聞こえましたけれどもね。

**宮本** でもその言葉の裏には、いつでも帰ってこいよという。

**マクン** そうですね。優しさも愛情もやっぱり感じていたので。

**竹花** ありがとうございます。よくわかりました。

さて小山さん、何か変わった経歴の持ち主だと聞いておりました、ぜひともその経緯をお聞きしたいなと思ってお呼びいたしました。自分でしゃべってください。よろしくお願いします。(笑)



**小山** 私は東京の公立小学校に行き、中学受験をしました。中学受験で第一志望に落ちました。これが最初の挫折です。大学につながっているところに入り、中学 3 年の夏、15 歳の時、アメリカに行き、同年代の学生のサマーキャンプに参加するという機会を得ました。

当時、自分は日本の中学では、英語はできるほうだと思っていたのですが、アメリカに行ったらまったく通用しないという状況に愕然としました。

アメリカの同年代、14、15 歳の子どもたちと話をしている、パクンの話にあったように、その場でできないものができると言ったり、自己主張がとにかく強い。日本人の自

分は、知らない人たちと一緒にになったら、まずお互いにどんな感じなのかなというところから始めるのですが、彼らは、とにかく自分はどうです、自分ができることはこれですと主張する。キャンプですので飯盒炊飯で火をたく係とか、薪を持ってくる係とかいろいろな係があるのですが、自分はこれが得意だから、したいからこれをやりますと、どんどんやっていく。そういう姿を見て、ある意味衝撃を受けて日本に戻ってきました。

中学では部活でバスケットボールばかりの生活でしたが、テレビやメディアを通して世界を見た時に、1989 年、今は非常に成長著しい国である中国では天安門事件がありました。今でも目に焼き付いているのですが、戦車の前で 18 歳、19 歳の学生が戦車を押さえようとしている姿を見たり、その 1 年後にはベルリンの壁が崩壊して、そのベルリンの壁を叩き壊している人たちも、19 歳、20 歳ぐらいの若者でした。その翌年には湾岸戦争でイラクがクウェートに侵攻しソ連が解体したり、そういうことが世界中で起きている中で、日本でテレビをつけると、多くの時間が、私もお笑いは好きですが、非常に平和なお話の流れている。1989 年から 1990 年の初頭は、私は経験したことがなかったのですが、いわゆるバブル期と言われている時期で、とにかくお金、お金で、ディスコで扇子を振っている人たちがテレビに映っているような時代でした。

世界と日本のこのギャップは何なのだと 12 歳、13 歳、中学生ながらに考え悶々とした思いを抱えていました。

そこで、その当時、今でもそうですが、経済的にも政治的にも軍事的にも最強と言われているアメリカという国に若い時に行ってみたいという気持ちがどんどん沸き上がってきていました。

15 歳のキャンプを終えてから日本に帰ってきて、親に言ったところ、15 歳の若造、青二才に何ができるのか、1 人で行かせるわけにはいかないと親は猛反対。でも、学校から帰ってきて、毎晩のように親を説得してアメリカのバージニア州の全寮制の学校に入りました。

そこは軍隊みたいな学校で、朝食を 3 回スキップすると停学。毎日チャペルに行かなければいけないのですが、チャペルを 2 回スキップすると停学、それが 2 回あると退学ということで、400 人ぐらいの学校ですが、毎年 10% ぐらいがそれで退学になるようなとても厳しい学校でした。

そういう環境の学校に行ったあとに、自分なりの考えや意見を持って自己主張が強いところがアメリカであるなら、他の国はどうなんだろう、もう少し違う国も見てみたいと思

い、大学はイギリスに行って日本に帰ってきました。

**竹花** 小山さん、そういう変わった経歴ですが、よかったですか。

**小山** これだけ IT が発達して、子どもたちが世界中の情報に触れる機会が、我々が若かった頃よりも明らかに増えています。それは間違いないわけです。グローバル化は何十年も前から言われており、世界中で大きな変化が起きている現実があり、SNS で瞬時にいろいろな情報が広がるような社会の中で、いよいよ日本が少子高齢化を迎えて、世界でやっていかなければいけない状況を考えると、そのことを、たまたま私は、12 歳、13 歳の時に感じて、なるべく早く海外に出て自分もまれる環境に置こうと 15 歳で決断したことは良かったのかなと思います。

**竹花** では、マクドナルド山本恵理さん。山本さんは、ご結婚されてお名前が変わられたのですか？

**マクドナルド** カナダに留学をしたのですが、その際にカナダ人の男性と結婚して、その男性の名前がマクドナルドだったのでマクドナルドです。

**竹花** どうしてカナダに行かれたんですか。

**マクドナルド** 留学されるとなると、最近結構若い年代で行かれることが多いと思うのですが、私がカナダに行ったのは 26 歳のときでした。生まれつき私は障がいがあって、最初は水泳をやったのですが、親がとにかく障がいがあっても自立させたいというのが生まれてからの思いで、私が水が大嫌いで、本当にこの子が死ぬのだったら水害だと思ったみたいで、それで水泳をさせたというのが始まりです。なので親が死んでもこの子が生きられるようにと最初から育てられたというところで、そのまま水泳をやってパラリンピックを目指すようになります。

パラリンピックを目指したきっかけは、「パラリンピックに行ってみない？」と言われたのですが、「パラリンピックって何？」と聞いたら、コーチから「ただで海外に行けるよ」と言われて、「海外。ただで行けるの。じゃあ目指す」と言ったのが始めです。もともと海外に行きたいという志向が強くて、その思いからもパラリンピックを目指すと言ったぐらい海外に行きたかったのですが、チャンスが全然なくて、水泳のキャリアをリタイアしたあとも大学生だったのですが、そのパラリンピックの種目を支えるほうに回りました。2008 年の北京パラリンピックにメンタルトレーナーとしてパラリンピックに帯同することになりました。

そのころパラリンピックではメンタルトレーナーはなかな

かいなかったもので、帯同したのは最初だったと思います。現地に行って仕事をするのですが、メンタルトレーナーはやはり安心させる存在でないといけな。選手たちに今何が起きているか、次に何が起ころのか、どういう準備をしたらいいのかというのを伝えるのも私の仕事かなと思ったのですが、パラリンピックは英語とフランス語が公用語なので、耳に入ってくるのは全部英語で、まったくわからない。帰ってきて、どうしよう、役に立たなかったと思ったのが一番最初で、そのときまた自分もメンタルトレーナーとしても、またそのあとの自分の人生をどうしようかなと思いました。

そのときに、障がいがあることでなかなか就職もできなかったこと、そしてパラリンピックであんなに自分が役に立たなかったと、この二つが海外に行こうと思わせてくれたのです。自分にはほかの人と違う経験とスキルを身に着ける必要がある。そうしたらこの世の中で生き抜いていけるのではないかと思ってカナダの大学院に行ったのが最初です。

**竹花** ありがとうございます。小山さんもマクドナルド山本恵理さんも。お二人ともたくましく生きてこられたと僕は感じます。僕なんかではとてもできないと思うのですが、そういう経験から見ると、今の高校生、あるいは日本の今の若い人たちを見ているとどうして自分たちのあとについてこないのかなという感じはありませんか。

**小山** 私は、それは感じないというのが率直な意見です。この人は何歳だからということあまり意識しないで今まで来ているということもあるかと思うのですが、むしろそのエネルギーは非常に高まっているのではないかと思います。とても熱い視線を感じます。

日本の戦後 60 年、70 年という歴史の中で社会の構造、仕組みが大きく変わってきており、社会に出てからのいろいろな生き方、ルールが変化してきているからだだと思います。その中で若かろうが、年配であろうが、あまり年齢に関係なく感じ取っていること、変えようとしているそんなエネルギーは非常に高まっているのではないかと思います。

今の若者は何か足りないとか、前に踏み出せていないということについては、あまり感じてはいないのですが、この過渡期にある日本で、いま社会構造が大きくいろいろ変わっていく中で、大人の社会では自分たちが決めてきたルールを少し押し付けている感があるのではないかと。大人たちもその押し付けている感がわかっているのに、若い人たちの声もきちんと聞いて変えていかなければい

けないのではないかということは考えているのだけれど、どう変えていっていいのかわからないというところがあるのだと思います。その部分のギャップが生じているために、今の若い人たちがエネルギーを発散しきれていない要因になっているのではないかと見ています。

**竹花** なるほど。若い人たちの側の問題もあるかもしれないが、大人の側に今の時代の変化についていけない部分があるのではないかという御指摘のようです。山本さん、どうですか。

**マクドナルド** 私も同じような意見ですが、今の若者たちにはとても選択肢が多いと思います。またその多様な選択肢の中から選んで自分たちの人生を歩めるといふ若者がとても多いと思っています。私は障がい者なので障がい者の視点から今度障がい者の若者たちに目を当てていくと、その選択肢が健常者の若者たちと同じように開かれているようにはなっているのにもかかわらず、その人たちが育てる親がそれを規制しているように見えます。

今はもう障がいがあってもどんな職業にも就けるし、逆に私が青春時代を過ごしたときに、私はアイドルになりたいと言った時期があって、親にすごく反対されたのですが、本人が本当にそう思えば、今はそんなことも簡単に挑戦できるようになってきたと思います。それをただ「あなたは障がいがあるから」と言う大人がまだまだたくさんいるのではないかと思います。

**竹花** でもそういう選択肢があり、外国の情報もたくさん入ってくるのに、何で日本の学生は海外に行って勉強しないんですか。留学生がうんと減っているという話ですが、バックンのハーバードには日本の学生、たくさん行っていますか。

**バックン** 留学生は、日本からは毎年1人、2人です。入るだけでもすごい。宝くじに当たるぐらいの倍率ですが、中国、インド、韓国からは数十人も入るから、それに比べて日本が何でこんなに少ないのかと、僕もハーバードの関係者からよく相談されますが、その答えとしては、日本の皆さんは日本で満足していると思うんです。いい意味で、日本はいい国で安心して暮らせる。卒業したら普通に仕事は待っているでしょうし、日本で暮らすのも楽しみだ、暗い数字があるとはいえ、みんな日本で暮らしたいと思っている。だから日本はいい国だとプラスに考えてもいいのではないかと思います。でももう少し海外に目を向けさせることも重要だと思います。

ちなみに、僕は昔から気になっていることですが、今の

若者はとよく言われますが、僕らもたぶん若かったころにも言われました。これは3500年も前、古代エジプトの象形文字にも「今の若者は」と書いてあるらしいですよ。これは人間の本能的なところで、一定の年齢を過ぎたら若者にダメ出しするのですが、またそれはその子どもも大きくなったら同じことを言うでしょう。「でも若者がダメだったら、それはその若者をつくった親世代が悪いんじゃないですか。親世代が悪かったら、それはその親世代をつくったおじいちゃん世代も悪いということなので、全部若者のせいにはしないでほしい。

**竹花** なるほど。宮本さん、そういう意見もありますけれども、今の若者は自分に自信を持って人生を考えているものでしょうか。一回聞いてみていただけますか。

## ◆「私たちはこう思う！」

**宮本** アメリカに行くのに日本が一番安全だから、野心・野望を持たないので済む国だからということを持っている人たちが中にはいる。一方、今日このステージに集まってくださった3組の若者たちはいったいどういうふうを考えているのでしょうか。

では一番右側が慶應義塾大学の学生さん、川上智也さんと青木優さんです。屈強な体をしています。体育会少林寺拳法部のお二人です。いま大人の皆さんが話しになっていたことで、ちょっと自分の意見とは違うな、あるいは感想でも結構です。ではレディーファースト、青木さんから。

**大学生(青木)** 私は中学受験をして中・高を私立の女子校に通ってましたので、割と井の中の蛙というか、お話しされてきた方とはまったく違って、一見過保護な状態で日々育ってきています。その中で皆さんが自分のことをすごく真剣に考えて、そのために海外に行かれたりというお話を聞いて、また自分の中に新しい話を受け入れたなという気持ちと、あとはもともと中・高時代もずっと勉強、部活に親が集中させてくれる環境を用意してくれたというのがあるのですが、今の現状、私も将来のことを十分に考えられていないなというのはお話を聞いていて痛感しました。



親が悪い、だれが悪いと言うのはすごく簡単なことですが、今回このようなお話を聞いて、改めて自分の将来を考えるきっかけにしたいと思いました。

**宮本** 過保護と今おっしゃったけれども、過保護で何が悪いというふうにお思いになりませんか。

**パックン** 宮本さんもお子さんに対して過保護ですか。

**宮本** そうだと思うけれど、向こうはそう思っていないと思う。子どもはそう感じていない。このへんのギャップ。

**大学生(青木)** 定義づけるのは結構難しいとは思いますが、私の場合は、たとえば親に「中学受験をしてみない？」と言われて、「ああ、する」、「大学はどこにするの?」、「じゃあ私立にしようかな」みたいな感じで、親がある意味ルールを敷いてくれたというか、逆に自分から世界を見ようとさせてもらえる環境をもらえなかったと言うのは簡単ですが、自分で見るきっかけを得られなかったというのは、過保護になった結果なのかなとはちょっと思っています。だから世界を見るチャンスを与えられなかったのは過保護と言うか。

**宮本** 別に外を見る、外国を見ることをしなくても、幸せに生きてきたわけでしょう?

**大学生(青木)** まあ、そうですね。でも自分の中では幸せだったと思うんですけど、ただもっと早くからいろいろな選択肢を見ることができていれば、もっと幸せになっていたかもしれない。

**宮本** 今日の大人の皆さんのきっかけ。挫折をしたことがないでしょう?

**大学生(青木)** 挫折は、たぶん大きな意味ではまだないですね。

**宮本** 皆さんは、挫折をいい意味で災いを転じて福となしているわけですね。パックン、何か言いたそうですね。

**パックン** 挫折ですか。いや、僕はトントン拍子でここまで、順風満帆ですよ。

**マックン** いいですよ。だから何が悪いんだと思うよね。

**パックン** うん、そのうち挫折するよ、お互いに。僕も過保護、守ってやって当然だと思うんですけど、やりたいことを自力でさせるというのも守る行動の一つかなと思うんです。「塾に行きたい?よし、行きなさい」。その塾のお金も自分で稼ぎなさいというのはたぶんアメリカの親の立場、見方なのです。

だから僕も、たとえばスポーツをずっとやりたかったけれ

ど、そのレッスン料は自分で稼いで払わなければいけない。サマーキャンプに行きたかったけれど、その費用も自分で稼いで払うことになったのです。そうするとサマーキャンプの体験とアルバイトの体験、両方できて倍、成長したんです。

**マックン** あとよくお膳立てという言葉がありますがですけど、親が子どもの食事を全部セットしてあげてしまうというのが、今多いと思うんです。でも手伝わせて、御飯の位置はこっち、お味噌汁の位置はこっち、お箸の向きはこっち、これをやりながら教えてあげれば、子どもは覚えるけれども、全部お膳立てしてあげてしまうと、いざ外に出たときに「あれ、これ向きどっちだっけ」となってしまうのと一緒に思うんです。だからさっき言ったように親がルールを敷いて、それに乗っかっていくと、そういうふうになってしまふのかなと僕は思います。

**パックン** マックンの実家はそういうセッティングは子どもがさせられたの。

**マックン** 僕は、たとえばセッティングも手伝うし、終わったら自分で片づけて、自分で茶碗を洗う。週に2日は御飯を炊く係もやったし、それで自立したときに自分で御飯も炊けるようになったし、おかずもつくれるようになったし、大人になってから、たとえば奥さんが病気になって寝込んだしまったというときは、奥さんの代わりに御飯をつくれたりとか、そういうのは若いときの経験が今活かしていると思います。

**小山** アメリカと日本の違いというところで、今たぶんこちらにいらっしゃる方々のお子さんは、中学生とか小学生だと思うんですけど、私がアメリカに行ってすぐに感じた、今振り返るとこれだなと思ったのは、0歳とか1歳とかは別にして、ある程度言葉、パパとかママとかしゃべる年代になってからは、たとえば子どもがレストランで走って人にぶつかってしまった時、日本の場合は親が「どうもすみません」と謝ります。だけどアメリカでそれを見たときに子どもに、「あなたはこれをしたから謝りなさい」と謝らせる。だから親が代わりに謝るということは、アメリカにいたときにあまり見かけなかった。

過保護の定義ではないですけど、それが一部だとするならば、子どもに個人として悪いことをしたときに謝る、何で謝っているのかを早い段階からわからせるということをしているのかなと感じました。

**宮本** では川上さん。何年生?

**大学生(川上)** 3年生です。僕は小学校受験で小学校に

入って、中学校にそのまま進んで、高校受験で慶應に入ったのですが、中学までは割と親から塾に行きなさいと言われて、とりあえず勉強してみたいな感じで、高校をどうしようかなというときにいろいろ受けた中で、僕は慶應に行きたいと言って慶應に行きました。小学校からずっとキックボクシングをやっていて、高校に入ったら格闘技をやりたいと思って、そこから少林寺を選んで、高校・大学と少林寺を続けています。

先ほど海外に行かないという話がありましたが、それは今僕は少林寺がしたいからしているわけであって、じゃあ海外に行くというオプションも、それは別に選ばなかっただけであって、僕は少林寺がしたかったのでそういう道を選びました。

**宮本** いつでも海外に行きたいという意識は持っているということですね。

**大学生(川上)** そうですね。職業に就いたら海外で働きたいなと思っています。

**パックン** 海外に行く準備はしているんですか。英語とかは勉強しているんですか。

**大学生(川上)** 英語は結構小さいころから勉強しています。

**パックン** すごい。カッコいいな。

**宮本** 今会社に入らなければいけないから就活をやっているんだよね。

**大学生(川上)** そうですね。

**パックン** ちなみにスポーツは何をやっているんですか。

**マックン** だから空手だよ。

**宮本** いや、少林寺拳法。

**マックン** そうだった・・・すみません。

**宮本** 先ほどから再三申し上げております。18歳の成人の話ですが、今何歳ですか。

**大学生(川上)** 今20歳です。成人式は今年の1月に終わりました。

**宮本** 18歳成人をどういうふうに思いますか。

**大学生(川上)** 20歳で集まったときも、そんなに別に久しぶりだと思わなかったの、何歳になっても成人するというのは、成人式に出て、ああ、俺は成人したんだという実感はなくて、僕は18歳の高校を卒業したときに大人になったなと思いました。だから18歳になることに対してそんなに違和感はないです。

**宮本** ただ18歳で大人になってローンも大人の承諾を得ないで自分でできる。お金の管理の面はどうなんですか。

**大学生(川上)** 僕は20歳になってクレジットカードをつくったんですが、結構使い過ぎてしまって。(笑)

**パックン** えっ、もう。最近つくって、もう使い過ぎたんですか。

**大学生(川上)** 御飯に行ったときとか、普通にカードを切ってしまって、月2~3万行ってしまうみたい。一番多かったのは7万ぐらい行ってしまって、オーっと思いました。

**宮本** 親御さんは何て言っていますか。

**大学生(川上)** 特に話してないです。それは自分で口座にお金を移したりしています。

**宮本** そのももとの口座というのはお父さん、お母さんから送られているお金ではないの。

**大学生(川上)** ももとのお金は昔からお小遣いとかお年玉とかをためてきたもので。

**宮本** 自分でためたお金。じゃあ自己管理の中で責任を果たしている。あまり使い過ぎないようにね。

**大学生(川上)** はい。

**パックン** 一気にここで親目線になるよね。あとで相談しよう。クレジットは使い方間違えると怖いぞ。

**宮本** パックンもいやな思いが。

**パックン** 僕個人は一切借金をつくらない。大学の奨学金は借りたのですが、あと今住んでいる家のローン、それ以外は一切借金をつくらない。クレジットも持ったことがない。全部デビッドでやっていますが、僕の姉がすごい痛い目にあっているんです。車中暮らしが2年続いたので、車中暮らしの怖い話をしてあげるよ。

**宮本** なるほど。大学生のお二人にお話を伺いました。今度は先ほどすばらしい演奏をしてくださった東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校の東條太河さん、橘和美優さんです。東條さんは何年生ですか。

**高校生(東條)** 二人とも今3年生です。

**宮本** 今大人の話聞いてらっしゃって感じたことは、どんなことでしょう。

**高校生(東條)** 僕たちは普通校というより音楽を専門にした学校に通っているので、今話していることを聞いていると、だいぶ隔離されたところにいるなと思います。

**宮本** 将来はもちろん音楽家になるわけですけど、い

つごろから音楽家になろうと思われたの。どういう家庭環境だったの。

**高校生(東條)** 僕は4歳から、彼女は2歳から始めているんですけど、僕の場合は母親がすごい厳しくて、幼稚園も遅刻する勢いで練習させられて、中学まではずっとそんな感じで、食べる、寝る以外は練習みたいな生活をしていました。

**宮本** 三枝成章さんは、4歳から24歳までの20年間で6万時間を費やさないといけない水準に達しないと言っているけれど、6万時間というと1日8時間ぐらいやるんでしょう。やってきたの。

**高校生(東條)** 休みの日はやっていました。

**パックン** こういう親はどっちなんですか。過保護ですか。

**宮本** でも御自分も好きなんですよ。

**高校生(東條)** 小さいころはみんながサッカーとか野球を楽しんでいた時間が、僕は本当にうらやましくて、今でもうらやましく思っているんですけど。

**パックン** このあとサッカーやろう。2人でキャッチボールやろう。

**高校生(東條)** そういう時間は今でもほしかったとは思っているんですけど、中学や高校の留学していた時代は、特にもう自分はこれしかないと思って一本に絞ってやっています。



**宮本** 音楽留学でオーストリアに行きましたが、これは御自分の意思で。

**高校生(東條)** そうです。僕の場合はこの国に行きたいというよりは、この先生に習いたいという意思が強くて留学しました。

**宮本** 行った経験はどういうふうに活かされていますか。

**高校生(東條)** 中学を卒業するまで母親にすごく厳しい練習を課せられていたので、急に一人になった瞬間、どうすればいいのかわからなくなってしまって、レベル的に少し崩れてしまった部分もあったのですが、留学していた時代は今と比べて時間的にすごい余裕があって、いろいろな演奏会や美術館、観光名所などを巡る時間があったので、そういうのは今かたちには表わせないのですが、自分のインスピレーションとして持っています。

**宮本** それまで国内にいたときと違った自分にチェンジ、変革することができて自立につながっていく。

**高校生(東條)** そうですね。ヴァイオリンとか音楽は、もちろん音程を外さないとか基礎的な技術もすごい大事ですが、結局は人に感動を与えたり、そういうものが大事なので、技術的な面以外のものを養えたと思います。

**宮本** 今日はこういうステージに立っています。今日の音楽以外の感動はどうでしょう。

**高校生(東條)** いつもと違う感じなので、すごいお恥ずかしいというか、緊張というか、自分がこんなところに座っていていいのかなと思っています。

**宮本** お隣、橘和美優さん。18歳で大人になります。今何歳ですか。

**高校生(橘和)** 今まだ誕生日を迎えていないので17歳です。

**宮本** 18歳の大人というのは、どういうふうに思いますか。

**高校生(橘和)** 今の18歳で成人になるということは、選挙権とかそういう政治的な勉強も、今の勉強と別にしなければいけないので、すごい大変だなと思うのと、やっぱりまだ高校生とかだと意志が弱いから、周りに流されて、何もわからないまま選挙とかしてしまったりするのではないかなという不安はあると思います。

**宮本** 結婚年齢もいままで女性は16歳で結婚できました。この改定によって18歳に上がってしまいました。男女ともに18歳で結婚できる。それについてはどうでしょう。考えたことないよね。

**高校生(橘和)** あまり考えたことはありません。(笑)

**宮本** そうだね。音楽のことでいっぱいだね。でもちょっとお話ししてみて。

**高校生(橘和)** 16歳で結婚を考えている人は少ないけれど、でもどうなんだろう。

**宮本** 16歳で女性は結婚できたんだけど、それを引き上げたのは、10代の婚姻率が0.5%で結婚する人が少ないということで、だったら18歳までに上げようということになったらしい。

**パックン** 少ないからだけではないと思うんですけど。それこそ大人になって自分の判断で結婚できる。それぞれの人権として、そのへんを守ってやろうというのが主旨か

などと思います。

18歳で成人、18歳で結婚できるという新しい法改正についてどうですかと聞かれたのは初めてですか。

**高校生(橘和)** はい。

**パックン** これがまたアメリカと日本の教育の違いです。当事者でいらっしゃるわけです。これについて議論していないのは、アメリカではありえない状態です。

**宮本** それは授業でやる、ディクテーションでやる。

**パックン** 授業でもやるし、各家庭でもやるし、友だち同士でも「見た？大人たちが勝手にわれわれの結婚年齢を変えやがって」とか言ったりすると思う。それが日本の当事者でいらっしゃる方でも、それは子どもだけじゃなくて、大人も普段からあまり議論をしていないのが、すごい特徴ですね。

もう一つ、この話し合いの進め方にも二国間の違いが見えてきます。宮本さんが「いかがですか、大人たちのお話は」とお聞きになりました。たぶんこれに違和感を持っているのは僕だけなんです。アメリカだと高校生は子どもという扱いをしません。われわれ大人、お前ら子どもとなってしまうと、逆に高校生は「だれが子どもや〜」になるんです。高校生がそれぐらい自分の意識も持っているし、大人も君たちはもう仲間だと付き合うのです。子どもという言い方をしない。

もちろん未成年という言い方はします。これは法律上の話であって、子どもではない。もう普通に議論に参加できるぐらいの頭脳も持っている一人前の人間としてアメリカでは付き合うのです。それがたぶん自立する、しないの違いにもつながると思います。

**宮本** なるほど。大人の皆さん、子どもの皆さん、若者の皆さんとは区別しない。みんな大人。

**パックン** しないです。たまたま学生、たまたま元学生。

**宮本** じゃあ、たまたま今現役の日比谷高校のお二人、杉山敬洋さんと遠藤未生さん。では遠藤さん、どうでしょう。

**高校生(遠藤)** まずさっき日本から留学する若者が今減っているという話があったのですが、それを逆に自分は増えていると感じています。最近私の仲のいい友だちが5年間の長期留学に行くことが決まったとか、ほかにも私の周りの方で短期・長期留学を自分で決定して進めている人が多いので、減っているとは思いません。

逆に私が留学とかに踏み切れない理由の一つとして、

日本と外国のカリキュラムが違い過ぎることがあります。まず日本は4月に新学期が始まりますが海外では9月始まりとか、留学に行くタイミングもつかめなかったりするので、留学するには相当な覚悟が必要だと思います。行く人も増えているけれど、行けない人はそういう理由で行けないのではないかと考えています。

**宮本** 今日は日比谷高校の生徒会のお二人、そして校長先生もいらっしゃるんですね。非常にやりにくいと思いますけれど、でも評価が高くなるかもしれないから。(笑)外国に目を向けているというのは、日比谷高校の特性なんでしょうか。

**高校生(遠藤)** それもあると思います。日比谷高校ではいろいろな方を呼んで講演会が行われています。最近では、たとえば国連で働いている女性の講演会、ハーバード大学の説明会とかにも行く機会などもあって、海外に目を向ける機会が多いことは、やはり日比谷高校の特性なのかもしれません。

**宮本** 同時に学校の中で今回18歳の成人ということで、そういう話し合いをしたことはありますか。

**高校生(遠藤)** はい、友だちとちょっとだけしたことはあります。でも喫煙とか飲酒ができる年齢はまだ20歳に押さえられているのは、逆にそこに何か微妙な矛盾が生じているのではないかと話しました。

**宮本** どういう矛盾だった？



**高校生(遠藤)** 18歳を成人とするということは、18歳になれば自分で判断ができるということを基準に大人のほうから定めたはずなのに、逆に喫煙、飲酒ができる年齢が20歳にとどまっているのは、自分でその程度の判断ができなかったり、まだ自分で判断がしっかりできないと思われるというところに少し矛盾が生じているのではないかと感じています。

**宮本** 飲酒年齢の件に関して、体格的に健康の面も考えているのではないかとと思うのですが、コロラド州出身のパス

クン、コロラドでは何歳から。

**バックン** お酒は 21 歳からです。

**宮本** 大人は 18 歳。

**バックン** たばこは 18 歳。でも何をもって成人、大人かと言うと、クレジットカードがつくれたり、エロビデオを借りられたりするのには 18 歳からです。でもだいたい周りから見て大人というのは、さっき言ったとおり、たとえば中・高でその人のふるまいを見て大人かどうかを判断する、扱い方が変わる。法律上で大人は 18 歳だけれども、車の運転は 16 歳、お酒は 21 歳、被選挙年齢が 25 歳だったり 35 歳だったり、保険は 25 歳などとバラバラです。ちなみにコロラド州では、21 歳から大麻、マリファナも合法で嗜好品として使えます。

でもこれは僕が答える立場ではないかもしれませんが、基本的に脳がまだできていないから、お酒を飲まない年齢は全国民を守るための法律であって、たとえばある薬は処方箋がないと飲めないと同じように、子どもだからという判断力の問題ではなくて脳の発達の問題だけなのです。

**小山** 今アメリカ対日本みたいな構図になってしまっていますが、私の場合、ヨーロッパに行ったり、アジア圏でも働いていたりしているので、それを比べた時に、例えば今の飲酒で言いますと、イギリスは 16 歳から親と一緒にいる時は飲んでもいい、18 歳からはパブ、いわゆる酒場に入ったりしていいということになっています。ドイツも同じような法律です。アジアを見ると、シンガポールではもうちょっと厳しくてアメリカと同じように 21 歳からという法律なので、一概に何歳からなら自分でいろいろなことを判断できるでしょうということ飲酒や喫煙をしているのではなくて、今バックンが言ったようなところがあって、体格とか脳の発達、身体的な負担といったことも踏まえて健康の観点でそういったルールにしているのかなと思います。

**宮本** お隣の杉山さん、今ずっとお話を聞いていて、ここは自分の考えとは違うな、ここはちゃんと納得できるなというところは。

**高校生(杉山)** 先ほどの議論から、もっと日本の学生、若者は野心を持って、もっと海外に目を向けろというお話があって、もちろんそういう学生が少ないことはちょっと問題かなとは思いますが、逆に自分はそんなに野心は持たなくていいと思っている人もいて、海外で活躍したいと思っている学生だけではないと思っています。海外は別にいいからという学生は、では日本の中で学んでいることに誇

りを持っているかどうかの問題だと思います。

そういうことではなくて、やはり海外で活躍する人だけが注目されてしまっています。国内で一生涯懸命頑張ってい



る人たちのことが報道もそうですし、あまり取り上げられない。そうすると自分は海外とは無縁だからとどんどん自信がなくなるという負の連鎖みたいなことになるのではないかと思います。ですから高校での教育も、日本の社会としても、もっと多種多様な職業の人たちを取り上げて、ああ。こういう人もいるんだなみたいな、いろいろな価値観を示していつてもらえれば、若者ももっと選択肢を持っているのではないかと思います。

**バックン** なるほど、そのとおりだと思います。今グローバル化、グローバル化と言って、世界で活躍する方はすぐ取り上げられて注目されるのですが、国内でもすごい人はいっぱいいるんです。一番象徴的なのは、ワールドカップです。コロンビアに勝ったらこんなにワイワイされる。でもJリーグでやっている皆さん、全然視聴率が取れていない。同じサッカー選手がいるのに普段から応援してもらえない。でも世界の舞台に立つと一気に大スターになる。何ですか、この温度差。

**高校生(杉山)** そこにちょっと違和感を覚えます。

**バックン** ワールドカップ、見てる？

**高校生(杉山)** ちょっと見ました。

**バックン** 見るよね。僕も見る。

**宮本** どっこい、日本で頑張っている人もいるんだ。そこにはやっぱり脚光を浴びさせてほしいという。

**小山** まさにおっしゃるとおりです。海外では日本ブームが起きていて来日者も多くなっていますが、日本が持っているものは本当にすごい。私自身は海外にいた時間が長く、外から日本のすごいところ、良さ、世界に誇れるさまざまなことを見てきました。

実は一部の人たちから世界にトップクラスの評価をされている技術がたくさんあります。ただ、先ほどの謙遜の話

ではないのですが、日本のビジネスもそうですが、文化として苦手なのがマーケティングの力です。そこが一番弱いがゆえに着目されにくいという風潮があるのかなと思います。

**宮本** ちゃんと布石を考えながら地ならしをして、マーケティングのこともちゃんと考えていく能力が今日本に欠如している。

**小山** そうです。浅草に行ったら 300 年、400 年やっているお店がありますが、こんなのは海外の人たちから見るとアンビリーバブルな世界です。すごいことです。何でこれが日本の国内で取り上げられないのだと。例えば、中田英寿さんが今、日本酒をもっと盛り上げようとやっていますが、日本の良さをどんどん発信していく、そういう活動が今後重要になってくるのかなと思います。

**宮本** 杉山君は 18 歳の大人はどういうふうに思いますか。

**高校生(杉山)** 僕は 18 歳大人に賛成です。というのは、お金を借りられるといふこともそうですが、たとえば 18 歳から会社を立ち上げたり、そういうことができるようになると思うので、社会で活躍したいという人にとっては活動の幅が広がるいいことかなと思います。

**宮本** 具体的にはどんなことを考えていますか。

**高校生(杉山)** 僕は会社を立ち上げたいとか、そういう大きな夢みたいなものは持っていませんが。

**宮本** でも君だったらできそうだね。

**パッケン** 絶対できるよね。将来何をやりたいですか。

**高校生(杉山)** 報道関係の仕事に。

**パッケン** 報道関係？テレビ？

**高校生(杉山)** テレビです。

**マッケン** よろしくお願ひいたします。

**宮本** 報道関係でもいくつかあるけれど、どういう種類、社会部、政治、経済、国際。

**高校生(杉山)** 僕は進路としては大学で政治などを学びたいと思っていて、なのでそれを活かせるような職種に。

## ◆「大人たちにも言わせて欲しい！」

**宮本** ちょっと長谷部区長にお話を伺ってみましょうか。アドバイスを。

**長谷部** 報道ですものね。政治を学ぶとことはすごくいいこ

とだと思います。普段の会話で、高校生、自分のころもそうでしたが、あまり政治の話をしない。青春時代、僕が覚えているのは、さっき小山さんが言っていた湾岸戦争があって、その時はちょうど自分の中で海外志向も高まってきた頃で、同じ時期に「朝まで生テレビ」という番組がやり出し、友だちと独自に自分たちの「朝まで生テレビ」と言いながら話したりしていました。若いころに政治について考えることは非常にいいことだと思うから、多様ないろいろな人と議論する機会を持ち、たくさん研鑽した人が政治を語るようになってくれるといいなと思います。

**竹花** 高校生の方も大学生の方もそうですけれど、皆さん、これからこういうことをしようかな、こういうことをしたいなということを友だちとよく相談したり、先生に聞いたり、そういう問題意識を持って高校時代を過ごしておられるのか、あるいは過ごしてきたのか、そこら辺のところについてはどうですか。そういうことまではお考えになりませんでしたか。ただ一応流れの中で何となくこうかなという感じでしょうか。

**高校生(杉山)** 先ほど夢とか政治のこととか社会の動きを友だちと語り合ったらいいというお話がありましたが、いま日本の高校生だけなのかちょっとわかりませんが、若者は政治とか、そういう話題はなるべくしないようにして避けてしまうようなことがあるので、小学校のときみたいに自分の夢を人に言ったり、あるいは作文にしたりという機会もないので、自分を発信する機会が持てていないのかなと思っています。もうちょっと他人の意見を聞き入れることと、

自分の意見を言うということ、これを両立してもっと夢について考えるべきかなと思います。

**パッケン** 何で小学生のうちに聞くのに、その夢の実現が近づいてくる高校生の時に聞かない

んですか。

**マッケン** 小学校のときには「自分の夢」を書いて学校に残してきたでしょう。文集とかに残りますからね。「20 年後の自分へ」みたいなものを書いたりします。

**パッケン** でも小学生のころは何もわかっていないですよ。うちの子どもはまだ小学生ではないですけど、5 歳のときに「将来何になりたい」と聞いたら「消防車」と言いました。大きくなるにつれ、それを聞く頻度が上がって当然



なのに聞かない。遠藤さん、将来何になりたいのかとか聞かれてないですか。友だち同士でも話さないですか。

**高校生(遠藤)** 将来何になりたいというのは、大学の進路に結構深く結びついていると思うので、たとえば大学受験に友だちが失敗したときに、その話題に触れづらくなるかなと、タブーっぽい面もある。

**宮本** 他人のことを慮っているわけだ。

**パッケン** 僕も近くに高卒で終わってしまった人が。

**マッケン** 俺のことかよ。

**パッケン** 大学に滑っちゃって人生失敗している人がいるから。

**宮本** 災い転じて福となしていますから。

**パッケン** そうか、そういうところに空気を読んで言わないんだ。

**高校生(遠藤)** あとは私がもし聞いたら、向こうも聞き返してくるかなというのもあって、自分の夢がはっきり決まっていけないのに人の夢を聞くのもずるいんじゃないかなという気持ちもあります。

**マッケン** 親御さんとかとはそういう話はしないですか。

**高校生(遠藤)** 親とはあります。アドバイスをもらったりとか、周りにこういう人もいたよみたいな話はします。

**マッケン** 僕の娘が高校2年生なので、たぶん同い年ぐらいなんですけれども、うちの場合は娘とは将来何になりたいとかという話は結構するんです。舞台の役者になりたい、役者が無理だったら裏方さんでもいいからそういう関係の仕事に就きたいという話は結構していますね。・・・親とは将来についての話はするんだね。

**パッケン** 遠藤さんは何になりたい？

**高校生(遠藤)** 私はまだ文系に進むか理系に進むかすらはっきりとは決まっていないので、わからないんですけど、海外に行って人の役に立つ仕事に就きたいなと思っています。

**パッケン** すばらしい。あとで小山さんに相談してください。

**宮本** 明日小山さん、シンガポールに行くんだって。

**竹花** パッケン、アメリカの高校生って勉強しないっていうじゃないですか。

**パッケン** アメリカの高校生は勉強しないって言い切られたんですか。

**竹花** ええ。

**宮本** しない人もいます。

**竹花** だけど自分の将来について、まず考えて、高校生のときに一生懸命調べて、よし、こういう道に進もうと、それならばこういう大学のこういう学部に行こうというふうにして、自分の進路を決める期間が高校生活だと聞きましたけれども、それは本当ですか。

**パッケン** 高校生活は、まず日本とまったく違います。日本の高校は楽器とかをやっている方は朝起きて練習したり、もしくはスポーツをやっている方は朝練をしたり、そして学校に行ったら放課後に決まった一つの部活をやって、そのあとは塾に行くというのが、進学高校コースの皆さんのたぶん8割ぐらいが過ごしている生活ですが、アメリカは、たとえば僕の場合は、朝3時半に起きて学校の前にアルバイトをした。新聞配達をやって学校に行ったら、放課後はいろいろな部活に参加します。スポーツをやったり音楽をやったり。

**宮本** できます？

**パッケン** 掛け持ちOKです。逆に掛け持っている人こそすごいと言われるんです。

**宮本** 能力があるからみんなできるんだと。

**パッケン** いろいろな分野で能力、才能を持っている、そしていろいろなスキルを学んでいると思われていて、塾には行かない。なぜかと言うと塾はないからです。学校に6時間とか行っているじゃないですか。勉強はそれで十分だろう。日本では学校の先生が進学したいなら塾にでも行ってみたいかがですかとか勧められたりすると思うんです。そういうことを高校の先生に子どもが言われたら、アメリカの親は怒ります。たぶん高校に殴り込んで、「何やってるんだ。教育を受けさせるためにここに行かせているんでしょ。何でここで足りないんだ、と怒ります。それを日本でやってしまったら、モンスターペアレントと呼ばれる問題行為ですよ。でもアメリカでは当然です。親の仕事は子どもを守る。過保護ではないけれど守るためには学校にでも殴り込む。

**マッケン** じゃあモンスターペアレントという言葉もないの？

**パッケン** 英語でモンスターペアレントと言わないですよ。

**マッケン** 何て言うんですか？

**パッケン** ペアレント。

**マッケン** そのまま！！モンスターがなくても元々怖いんだ！？

**パックン** でもそういう学校生活も違う、放課後の生活も違う、勉強しないということではないのですが、勉強がすべてではない。逆に放課後のさまざまな活動、アルバイトとかコミュニティサービスなども含めて、逆に全部が勉強なんです。勉強というのは、学校教育以外のところも含めて勉強。

**宮本** それはよくわかるんですけども、ただハーバードに入るためには時間をつくって勉強しなければならないでしょう。

**パックン** そういう方も多いんですけど、ちょっといやらしい話になりますけれど、高校に行って、たとえば 1 時限目が数学だったらその宿題を 2 時限目の国語の授業中にやる。国語の宿題は 3 時限目の社会の授業中にやる。そういうやりくりで宿題は持って帰らないで時間をつくっていた。

**宮本** 授業を受けていない。

**パックン** 授業を受けているんだけど、授業のペースが遅いんです。だからやりながらで十分ついていける。朝 3 時半に起きているから途中で眠くなって寝ることも多かった。

**宮本** よくまあハーバードに。

**パックン** まあね。並大抵の才能じゃないぞ。

**宮本** それを言いたかったんだね。

**マックン** 宮本さんに対して今、急にため口になったけれどね。

**宮本** 武内先生、どうですか。こういう生徒さんが日比谷高校にいたら。

**パックン** むかつくでしょう。

**武内** やりづらいですね。でもうちはペースが速いのでたぶんそういう暇はあまりないと思います。



**パックン** 本当にそうなんです。日本の大学受験の学力はアメリカの受験の学力よりはるかに高いし、情報量はすごいんですよ。ただ校長先生、ちょっと聞きたいのは、論文とかはどうなんですか。発信力も鍛えられていますか。

**武内** うちの 1 年生のときに理科の自然科学のテーマを何か研究するというのを課しているんで、レポートにまとめてもらったり、あとで御紹介しようと思っていたのですが、パックンが出られたハーバード大学や MIT に行ったり、あるいはシンクタンクのアспен研究所に行ったりして、自分たちの考えた世界の食糧問題と解決策を提言・発信するという取り組みもやっています。そういう部分は普段の教育活動の中でだんだん増えています。

**小山** それは一般の高校でもそうなんですか、日比谷高校だけのお話なんですか。

**武内** すべての学校ではありませんけれども、たとえば全国的にもすべての学校でいま授業の中で、いわゆる先生から生徒に知識を伝達するだけではなくて、授業の中でグループ活動をして自分たちの考えをまとめてプレゼンテーションするとか、そういう集団での学びはもともとこれから増えていくと思います。

**宮本** 今回の 18 歳成人に関して、生徒さんの中でお話し合いをしたことはおありですか。

**武内** 生徒とはいいですね。

**宮本** 生徒が自主的にやることは。

**武内** さっき遠藤さんが言ったように自分たちでやっている子たちはいると思います。特に全体での議論はしていません。

**長谷部** 教育のあり方ですが、高校のテストとかを見ていると、いまマークシートが多い。入試もそうです。それが今変わろうとしている空気があるから論理性を高めるような問題にする方向にあるのだと思います。それを見据えて、小・中学校の教育ではそういった論理的思考が非常に重要ではないかと区の教育委員会の中でも議論が出ています。

**宮本** 2022 年に 18 歳、19 歳、20 歳、通常の 3 倍の人たちが成人式を迎えることになります。渋谷区では何月に行われているんですか。

**長谷部** 成人式は 1 月の成人の日です。今渋谷公会堂が工事中なので明治神宮のこの会場をお借りしてやっています。報道では今荒れた成人式とか言われますが、渋谷区はもともとそんなことはないのですが、公会堂よりもこの会場の方が明治神宮の中に入ってくるということでみんなが厳かな気分になってきて、なかなか神秘的な成人式になっています。(笑)

**宮本** 全国の自治体の 85%が 1 月にやっているということですが、そうすると受験シーズンとも重なりますね。

**長谷部** それもありますし、1 日ぐらい出でおいでというものなのですが、物理的にここはマックス 2000 人です。毎年成人になる人が渋谷区は 1500 人ぐらいいます。それが三つ一緒になると、当然ここでは入りきれない。

**バックン** 年齢別でやらないんですか。

**長谷部** 年齢別で時間を変えてやるのが得策かなと思ったり。

**バックン** 同じこと 3 回で区長の挨拶大変ですね。

**長谷部** だんだんこなれて上手になってくる可能性がある。

**バックン** 3 回目が一番いいと。

**宮本** 奥様が元テレビ朝日の美人アナウンサーの佐分さんですから、そのあたりの区長の挨拶はアドバイスがあるんでしょうか。

**長谷部** いや、ないですけど、よく日本語を直されます。アナウンサーは正しい日本語で、こっちは感情に任せた言い方のほうがいいと思っているんだけど、正しくないみたいなことを言われたりしてちょっとへこみますけれどもね。

**宮本** その 2022 年は考えどきだと。

**長谷部** そうなんです。でも成人式については 2022 年の 1 回だけを過ごせば、翌年からは 18 歳となってくるのでいいかなとも思いますけれども。

**宮本** 武内先生、ちょっとお話を戻します。日比谷高校では海外に向けた活動をしているということですが、そのあたりをもう少し具体的にお話いただけますか。

**武内** たとえば夏にいくつも研修を設けているのですが、一つだけ申し上げると事前に世界の食糧問題の解決策を自分たちで考えます。それからハーバード大学に行って学生と懇談をし、MIT に行ってグローバルリーダーに関する講義を受け、そしてニューヨークに移動して、アスペン研究所というシンクタンクにおいて食糧問題の専門家の前でその解決策を英語でプレゼンテーションする。かなり厳しいフィードバックをいただく場面もありますが、総じて高い評価をいただいています。

その中で、日本から見たらこうだけれども、世界の向こう側から見たらこの問題はこういうふうに見られているとか、柔軟で論理的な思考力を育てよう、英語をツールとして使いこなせる力を身に付けよう、そして自分たちの考えをきちんと提言・発信できる力を身に付けよう、そういうこと

を目的にしてやっています。そういう人がやがて世界の中で活躍してくれるだろうと考えています。

**宮本** これは日比谷高校だけではなくてあまねくできれば非常にいいことですが、そのあたりは難しいのでしょうか。

**武内** そのために、うちは今東京都教育委員会から資金的な支援をいただいているので実現ができていますけれども、都立高校でそういう取り組みができるのは 10 校だけです。ですからそういう資金面のサポートがあれば、汎用的にというか、広がっていく可能性はあるのではないかと思います。

**宮本** 長坂さんは十文字学園女子大学の名誉教授でもいらっしゃいます。若い学生と接することが多いです。今までのお話をお聞きになっていてどんなことをお感じになりましたか。

**長坂** 私は大学でも教えていましたけれど、その前は経営コンサルティングの仕事で海外を飛び回っており、特に 30 代から 50 代くらいまでは半分から 3 分の 1 は必ず海外にいました。私が大学生のころは、外国へなんか絶対行きたくないと思っていましたが、皮肉なことになってしまいました。いまのお話をずっと聞かせていただき、日本と海外の差を何となく皮膚感覚で感じておりました。

一つ、日本人の特性について強く感じたことがあります。皆さんはトヨタのレクサスという車をご存知ですね。レクサスは日本の高級車として、ベンツや BMW に対抗するために、トヨタがつくりました。レクサスの開発では、設計者の中で大きな議論がありました。

それは前のシートを 3 人席にするのか、2 人席にするのかでした。ちょうどレクサスが企画されたのは 1980 年代ですから、日本のモータリゼーションが活発化してきて、日本人が車というものにだいぶ慣れてきたときです。どのような議論だったかという、一方は、海外の高級車はみんな 2 シートになっていると主張し、他方は、アメリカの富裕層の家族を取り込むための車だから、前を 3 シートにして真ん中に子どもを乗せたらいいじゃないかという対立でした。

今だったらとんでもない話ですが、そのころはまともにそんなことを議論していた時代でした。日本人の感覚では子どもたちを自分の近くに置いておくのが当たり前でした。

それでトヨタの経営者は何をやったかという、じゃあ、アメリカの富裕層の生活を学んでこいということで、開発メンバーを 3~4 か月ぐらいディーラー巡りの旅に出すこと

にしました。ディーラーはみんな地域の富裕層です。ディーラーの家族と一緒に生活したり、ファミリーパーティやロータリークラブの集まりに参加したりして、開発メンバーはいろいろな体験をすることになりました。アメリカ人の生活では、夫婦はだいたい2人で出かける。子どもは車に乗せない。子どもはベビーシッターとお留守番です。そのことをやっとなることができました。

だれかが日本は過保護と言っていましたけれど、日本人は子どもに対しても人に対してもとても親切です。人間の心には三つの働きがあって、一つは「理性の働き」、二つ目は「感情の働き」、三つ目は、これは日本の言葉ではなかなか難しいのですが、「意の働き」、意欲とかそういう働きです。理性の働きとは、頭で考えるということ。感情の働きとは、人々と共感し合うということです。意の働きとは何か。実はやりたいことをやる、自分の本能に従って、求めるものを手に入れるということです。

日本では、もののあわれといいいますが、これは情の働きを今しています。日本人は情の働きが強い反面、意の働きが弱くなっています。「お前何をやりたいんだ」と言われたときに、やりたいことがあまりよくわかっていない。

先ほどの海外に行かれた方のお話を聞いていると、皆さんやりたいことがはっきりしている。多くの人たちはやりたいことがわからず、非常に受動的であるものをそのまま受け入れている。

パクンから自分たちの権利について議論しないのか、アメリカの高校生だったらやるぞと言われたのは、高校生には自分たちがやりたいということがベースにあって、そのために知性を使う、また、感情を働かせる。そういう違いがある。日本は情の文化で受け身となりますから、欧米人とはこのへんで議論の中でかみ合っていない。認識が全然違ってしまふ。

先ほど米国ではあまり勉強しないということですがけれども、結局英米の教育はエリートを選別していくシステムとなっています。だからできないやつはどっちでもいい。できるやつだけが上がってきて、社会の上層部を占めるという階層構造になっています。その辺が日本とは違う。日本は中間層に焦点を当て、その人たちをいかに上げていくかという教育です。

今一番大事なのは、18歳が選挙権を持っていますけれども、あなたは何をやりたいのか、あなたはどんな理想をこの国につかっていきたいのかということを考えることだと思います。それがないと感情に流されることになる。国会審議を見ると、ほとんど感情論のどっちでもいいような

ことです。大事なことは、やりたいと思うことを、もっともっと強くやらなければいけない。子どものためにも、あなたは何をやりたいのかをはっきりしていないと、いろいろ難しいよ



うな気がします。それがあって知性をどう働かせるか、また、みんなといかに感情共有していくかということになるのではないかと感じています。

**宮本** 今「情」とおっしゃったけれども、他人に対する愛情の「情」、と同時に自分自身が情熱が持てるかの「情」、他人への愛情と自分の情熱。

**長坂** 補足させていただきますが、実は「情」というのは、ロケット・エンジンのエネルギーなのです。情があるから進むことができます。「意」は方向舵、方向性を決めるものです。方向が決まってエンジンが動かないとうまく進まない。先ほどだれかがおっしゃっていましたが、若い人たちが何かやりたくてきているエネルギーがある、でも何かわからないけれどもやもやしているということですが、これはどういうことかという、実はそこに方向性がない。何をしたいか、何のためにするか、何に向かって行くかということがあまり議論されていないし、はっきり言うと、日本では考えたことがない。そこが大きな問題だと思います。

**宮本** いろいろ皆さんにお話を伺いました。では竹花さん、このあとの議論を。

**竹花** ありがとうございます。パクンに質問します。あなたが書いている本では、あなたには子どもが2人おられます。その2人の子どもは日本の学校でしょうか。

**パクン** 近所の公立小学校にずっと行かせていました。僕はそれがいいと最初から思って、放課後に英語を勉強したり、いろいろな習い事ができたりするといいなと思っていました。でも去年の11月ぐらいに5年生の息子

が受験勉強で大変で、塾に通って、学校にも通って、英語のレッスン設けて、遊ぶ時間も全然ないし、本人がすごいパンクしそうになっている、大変だと夫婦で相談しているときに、妻がインターナショナルスクールをちょっと見てみようかと言いました。僕の口からは言えなかったのですが、是非見てみようと言いました。なぜ僕が言えないかというと、僕がいない間は学校とのやりとりや送り迎えを担当するのは妻になるから、インターナショナルスクールで英語の作業になると僕が無理やりさせることはできないけれど、本人がやりたいと言うのならぜひひとと言って、あちこちのインターナショナルスクールに見に行くと、結局入れました。

そこでおもしろいことが起きました。今の話にあったとおり、日本の子どもは高校生も含めて何をやりたいのか、普段からそんな議論をしていないし、話し合っていないし、考えていないようです。ちょっと勘違いしているかもしれません。それはなぜなのかと言うと、たぶん小学校のころからそんなに選択肢が与えられていないと思うのです。自由研究は夏に1回来ますが、それに比べてアメリカの学校はほとんどの課題は自由研究です。読書感想文もこれについて書きなさいではなくて、好きな本を探して、できればオリジナリティを持ち込んで、自分だけの考え、自分だけの研究を示して感動させるように書きなさいと、小学校のころから言われます。

インターナショナルスクールに入れて、まずびっくりしたのは年末の発表会です。息子はちょうど年末に転校したので、公立小学校の発表会に参加してから、3週間後にインターナショナルスクールの発表会にも参加しました。日本の発表会はレベルが高く、その日の演奏も拔群、ミスなし、完璧でした。先生に教えられたとおりに歌う、動く、踊りも完璧、入場・退場の列も一糸乱れぬ行列ができてすごいきれいです。客席で聴いているほかの子どももまっすぐ前を向いて黙って聴いている。それに感動しました。

その3週間後、インターナショナルスクールの発表会を後ろから見ました。なぜ後ろからかというと生徒が優先されるから親の席がない。見ていると生徒の行儀が悪い。ほかの生徒が演奏しているのに友だちと勝手におしゃべりしていても先生は注意しない。舞台上で演奏している子どもも下手です。踊りも歌も合っていない。

でも何が違うかと言うと、みんな100%笑顔です。その3週間で息子も参加できたぐらい自由なのです。この踊りはだれが教えたのか、先生が考えたのかと聞くと、いや、

生徒同士が考えた。振り付けも生徒が考えて、練習時間は自分たちで見つけて、だれかの家や公園に行って練習して、発表会はわれわれのものを発表するぞという自信を持ってやっている。ラップもありました。ラップは難しいので、一人もできていないけれど、みんながプロラッパーのように、帽子を横にして踊っている。

それを見て、どっちがいいのか。行儀よく聴ける客席の子どもにも感動した。きちんと教えられたとおりにできる子どももすばらしいと思ったけれど、何かやりたいことを自ら見つけて実現したインターの子どももすごいと思いました。できたら両方のよさを持ち合わせた最強の子どもに自分の子どもを育てたいと思いました。

**竹花** 武内先生、今の話を聞いてどんな感想をお持ちですか。

**武内** パックンのおっしゃるとおりだと思っていて、日本の教育はオーガナイズされている部分が非常に強調されているので、個の考え、自分の考えを発信する、伝えていくという部分をもう少し大事にしなければいけない。アメリカの教育は知りませんが、個だけではなくて、もう少し組織的な対応ができる部分が育っていくといいのではないかな。だから両方がうまくミックスしていくことが望ましいのではないかな。それが世界標準になっていってくれたらうれしいと思います。

**竹花** パックンにもう一つ聞きます。日本の父親や母親とお付き合いがあったと思います。日本の親はどうですか。

**マックン** 身近にいるのがたぶん僕だと思いますけれども。高2と小3の娘がいます。パックンの長男が小5と小4なのでだいたい同じぐらいの時期に父親になっています。若いころはお笑いのことばかりでしたが、最近は健康の話と子育ての話しかなくなってしまいました。

**パックン** マックンは親として本当によくやっていると思うんです。さっき本人も言っていました、娘のやりたいことを聞いて、それをさせているし、支えているし、ダメなところはちゃんと指摘しているし、本当にいい親だと思います。僕は福井県にずっと住んでいて、第二の故郷、第二の家族として付き合いしているのですが、その日本の親の姿もすばらしい。一昔前みたいにお父さんが参加しないという家庭は、今ほとんどない。少なくとも僕の周りはお父さんもちゃんと送り迎えとかもしているし、おにぎり弁当をつくって渡しているし、最近イクメンという単語がはやっているおかげかわかりませんが、子育てをしているお父さんがカッコいいと自分たちも思って自慢している。

**マククン** 逆にイクメンという言葉がなくなればいいですよ。

**パククン** 今日もアメリカはすごいぞ、みたいな話をしていますが、日本では公共の場で親が子どもを怒鳴りつけているのを見たことがない。隠れてやっているかもしれませんが。でもアメリカは、それは普段からも子ども同士のけんかもよく見るし、行儀の悪い子は発表会だけではなくて街でもいつでも見かける。そのいい面は認めたほうがいい。日本はなぜか倫理・道徳をすごくしっかり教えられているし、落ちた財布は拾ってどうするか。アメリカでは当然持って帰ります。日本は当然届けます。3カ月前、自分の財布が返ってきました。これが日本の教育のよさ、親のおかげでもあると思います。返ってきた財布には3万円と、3万円分の新幹線のチケットが入ったままでした。中身が消えない。たまには増えて返るぐらいです(笑)。すごい感動します。いろいろな面で評価すべきです。ただ改善点もある。日本の皆さんは「カイゼン」が好きだから、ぜひ取り掛かってみていただきたいです。

**竹花** 今、武内先生から「個」という言葉が出ました。これまでの皆さんの議論を聴いていて、アメリカにおける子どもの育て方は、「個」の力をどうやって充実させるかということに重点が置かれている。子どもたちもまた俺は18歳で自立しなければいけないから、自分の力をつけよう、あるいは自分でこれをやりたいということを早く決めて準備をしよう。そういう流れの中に子どもたちは置かれている。

日本は、そういう意味で非常に大きな違いがあって、日本の場合、学校でいろいろ行われていることにまず耳を傾けて、そこに従ってついていく。家庭でもお父さん、お母さんはまだまだ先まで子どもたちの面倒をみるというつもりで子どもたちに接している。そういう中で子どもたちは18歳で大人になるということにはなかなか行かない。そういう大きな違いがあると思います。

スポーツを見ていて、個が強い外国勢、組織戦の強い日本勢と言われますが、日本でもう少し「個」というものを強めていかなければいけない時代に来ているのではないかと思います。長坂先生、そういう意味で日本の過去からの流れを見てみて、個と組織の流れの中で生きるということについてどのようにお考えになりますか。

**長坂** 日本は集団主義、欧米は個人主義とよく言われますが、最近は大いぶ変わってきました。昔日本では1軒の家の中に、場合によっては、お兄さんと弟の家族、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒にすんでいた。そして部屋はふすまで仕切られていた。だから耳を澄ますと相手の

言っていることが聞こえた。でもそこは慮って、聞いてはいけないことは聞かないようにしている。そんな生活をしてきた。これが日本の「ふすまの文化」です。

欧米は「ドア文化」。子どもと夫婦は別の部屋で生活し、夫婦の部屋の中にバスとトイレがあり、子ども部屋には共有のバスとトイレがあるのが典型的な家のかたちです。

日本では集団主義の思想のままで、高度成長時代にドア文化に突入してしまった。子どもたちには個室が与えられ、それぞれ個人が別々の生活をしている。欧米の場合は、長い歴史を経て、「個」と「個」の関係がかたちづくられてきたのですが、日本は高度成長時代から急激に変化した。

今ではもっと極端になり、お父さん、お母さん、子どもが、それぞれ別の部屋で自分の好きなテレビ番組を見ている。日本人は個人主義でもなく、集団主義でもないようになってしまっている。いじめは、一つには共感の働きも低下もあるのかもしれませんが、個人主義と集団主義の間で、間の取り方とか、人間関係の作り方が非常に混乱しているのではないかと感じています。

西洋は個性を尊重する「ドア文化」、かつての日本には集団を尊重する「ふすま文化」があったような気がしますが、日本では最近ここがごちゃごちゃしてきてしまい、どっちなんだろうということが今問題になっているのではないかと感じます。

**竹花** マクドナルド山本恵理さん、日本の18歳成人の動き、今までのいろいろな議論を通じて何か御感想はありますか。

**マクドナルド** 私がカナダで大学院生だったとき、私は大学生を教えていました。先ほどの議論にもあったように、やはりとても自由でした。定期テストで返ってきた回答に私がつけた点数が、ほかの先生よりも低かった。それで、私が厳しいと言われました。

日本でこの質問にはこの答えしかだめだと教えられてきたので、それはすべて×にしていたら、いや、この範囲の中で○か×かを決めなさいと言われました。



さっきパッケンが言っていたように、自由がたくさんある国が北米だったのではないかと思います、18歳で大人になるという中で、冒頭に申し上げたように多様性というところで、いろいろな選択肢が皆さんにも与えられるようになった日本、ぜひ高校生の皆さんもつかみに行っていなと思います。これが正解だから行くとか、これが間違いだと思っから行かないではなくて、行ってみたいから行く。先ほども情熱というお話がありました、与えられた選択肢よりもっとあるんじゃないかという気持ちで、大人への階段を上っていただければと思います。

**竹花** ありがとうございます。長谷部区長はいかがでしょう。

**長谷部** まず18歳で大人とみなすかどうかというところについては、基本的には大賛成です。もしかしたらもう少し下でもいいのではないかなと思うことすらあるぐらいです。たとえば今、実際18歳から選挙権を含めて大人になるということで、急に大丈夫かなという空気も出始めているけれども、凄惨な事件が17~19歳ぐらいであったときに、本当に少年Aでいいのかとか、その罰せられることについても少年法の中だけでいいのかとかいろいろな議論があって、今こうなってきたのだと思います。

大事なものは、立派な大人になろうとしている青年たちの話を聞いても、たいがい人は大丈夫だと思います。けどそこに夢は何だとか、将来何をやるんだというところまで全部、大人という区切りのところに持ってきてしまっちはちょっとかわいそうかなと思います。もちろんスポーツだったり、音楽だったり、早くから道が決まっ取り組めているものはいいけれど、大概の人はそうではないと思います。だからある意味、そこから夢を探し出してもまだよくて、でも1回社会に出てトライするのはそのぐらいの年齢から始めてもよくて、最終的には仕事は30歳ぐらいまでにちゃんとできればいいのではないかな。ちゃんと生活できるころまで持っていければいいのではないかな。だからまた学び直す人がいたり、仕事を変えていく人がいたり、社会がそのぐらい寛容なところを持てれば、大人になるラインが低くても十分ではないかなと思う。

たとえば日本の教育で集団という部分がずっと大切にされてきて、僕もそれはすごく重要なことだと思うし、日本人の武器の一つだと思います。そこはやっぱり学校の教育で失わないようにしつつ、その先の10年間でそれをベースに個を磨いて戦っていく。集団と個を並行しながらやりつつ、世界に出て行くとなるとやはりその先の猶予期間が少しあったほうがいいのかなという気はしました。

**竹花** 今日僕はこう感じます。日本のいいところは、家族がお互いを大事にして、きちんと一人前の大人に育てていく大きな責任を果たしてきたと思いますが、そうやって過保護と言われるぐらい子どもたちを大事に育ててきた結果、社会に出てみると必ずしも甘く受け入れてくれるわけではない。はっきり言って僕らの時代は就職してから役所や企業がちゃんと教えてくれました。放り出すことはなかった。

ところが今社会は、結構走り出してくる。その中で戸惑っている若者たちがたくさんいるのではないかな。日本でも個の強さが若いときから求められる時代が来ているのに、まだ子どもたちを育てている親や学校は、今までどおり子どもたちに私たちが教えてやろうとって育てているのではないかな。その乖離は、子どもたちを不幸にすることにならないかなと思います。

**長谷部** 今、親として、また自分が育ててきた頃とはやっぱり乖離は感じます。僕の子どものころの教育は、体育会系でしたから体罰もありました。当然体罰はダメですが、やはりそのギャップは感じます。それはだんだん直していく必要があっ、たぶん僕の親も同じようなことを感じて、さらにもっとひどいことがあったのかもしれないし、もっといいこともあったのかもしれない。



でも共通して言えるのは、社会に出ると理不尽なことはたくさんあっ、そこをどう乗り越えていくか、そこに免疫をつけていくかということは当然大切なことだと思います。だけど教育の中で無理に理不尽なことというのなかなか難しいとは思いますが、勉強だけではなくていろいろな場面、音楽やスポーツなどを通してとか、人それぞれいろいろあると思うので、そういった経験を積む必要はあると思います。

親として今思うのは、うちも娘3人なので過保護になり

がちなところはありますが、できる限りのことはしてあげたいと思うのは当然だし、そこが矛盾しているのは親として成熟できてないですね。(笑)

**竹花** 小山さん、外国と日本とのいろいろな違いを見てきながら、今回の18歳成人の日本の動きは、日本の社会を進歩させるチャンスなのか、それとも危惧がある話でしょうか。

**小山** 私も区長と同じ見方で、18歳はもっと下げてもいいのではないかと思うところもあります。喫煙やギャンブルといった話は別にして、選挙権を持つことについては18歳がよいのかなと考えますので、いい方向に進むのではないかと思います。

ただ18歳の選挙権と併せて、今までの教育の話、個人や集団の話の議論の中で、私が今後18歳になって選挙権を持たれる方々に明日からでも勉強してほしいこと、また保護者の方々にお願いしたいことは、お金の教育を是非お願いしたい。日本ではお金について話すことはタブーのようにとらえられていますが、生活するうえでこういうお金が必要、子どもを育てるのにこういうお金が必要という話が家族の中でも話されていけばよいと思います。

皆さん働き始めると税金を取られます。税金がどう使われているのか、気にするようになります。そうすると政治についても興味を持つようになります。なのでお金のことについて興味を持って勉強していただきたい。保護者の方々も子どもたちにこういうかたちで生活費はかかるということをお話して、かつ税金はこうやって使われるということをおも子どもも知っていくことが大事です。

選挙法が変わりますが法律を決めるのは政治家の人たちですから、そういう方たちがどういう考えを持ってやっているのかということに興味が行くのかなと思います。いろいろな意味で非常によききっかけになるのではないかと思います。

**竹花** 武内先生、日本の小・中・高の学校教育も変わるべきところがあるように思います。アメリカをそのままねる必要はあまりないように思うのですが、いいところはもう少し取り入れてもいいような気がします。そのあたりの感想を聞かせてください。

**武内** それは私も思っています、いわゆる知識の一方的な伝達だけでない授業場面、あるいは授業を離れたところでの学習活動、その中できちんと友だちとの対話によって自分の思考を深めていく場面とか、ディスカッションする場面のウェイトは増やしていく。あと入試の対応も当

然別に進めなければいけないと思っています。

今保護者の方はお子さんを大事に育てていらっしゃるんで、子どもが早熟化しているのと逆行していると思っています。ですからそういう意味では危険も感じますが、逆に言うと4年後に18歳が成人になることによってパクンがおっしゃっていたような自立を子どもたちも、あるいは私たち親も、教師も意識をしていくことによって、もしかしたらいい方向に行く場面もあるかもしれないと考えています。

**竹花** 長坂先生、時間がないので簡単にお願ひできますか。

**長坂** 私は学生とずっと付き合ってきていますが、よく話してみれば本当にいい子たちばかりです。一般的な常識も持っているし、共感力もある。ただ一つ、もう少し頑張ってもらいたいなということは、自分のやりたいこと、自分がしなければいけないことは何だろうということを、思ったり、考えたり、家族の中で話したりすることが、すごく大事だと感じています。

多様性とは、それぞれの人が自分の持っているやりたいことを実現すること、だと思ひます。そのところが抜けて多様性という言葉だけが先行していますが、もっともっと子どもたちに、その子のやりたいことを探させてやるのがすごく大事であり、それが国の政治や選挙をいい方向に導くことになるのかなと感じます。

決して日本が劣っているわけでもないし、反対に、欧米が劣っているわけでもない。それぞれ文化としての表れ方が異なっているだけだと思います。世界には、日本文化と欧米文化の違い、中華圏文化の違い、イスラム文化の違いがありますから、その違いを理解した上で、子どもたちがこれからどういうふう生きていくかが重要な問題だと思います。でわれわれ親自身も、自分たちの文化の特徴を理解していくことが大事だということを強く感じています。

**竹花** 今、芸大高校以外の大学生、高校生が4人おられますが、これだけは一言言っておきたいということ何かありますか。

**高校生(遠藤)** 今日まで私は成人の定義については、国民間での意識の差があることはわかっていたのですが、個人の間でも成人とはどうあるべきかとか、どういうことによって成人として認められるかということに関する理解の差があることをすごく感じました。まだ成人ではないのですが、成人になるということへの大人からの期待が大きいことも強く感じました。

**大学生(川上)** 武士道という話がありましたが、日本は文

武両道で1本の道を鍛えてずっと行くのがすばらしいけれど、欧米に行くといろいろなことができる人がいる。レオナルド・ダ・ヴィンチみたいにいろいろなところに才能がある人がすばらしい人というところに日本と欧米の違いがあるということと一緒に、日本人もいろいろな引き出しがあったほうがいいのではないかと思います。

1本の道をひたすら究めるより、いろいろなことを少しずつやって、人間的な引き出しを持つことで自分がやりたいことも見えてくるとちょっと思いました。

**高校生(杉山)** さまざまな人とかかわって、その人とうまくやっていくという日本的な組織性のよさ、それから欧米で言われているはっきりとした目的意識を持つことの大切さ、その二つをしっかり肝に銘じてこれから有意義な高校生活を送っていきたくと思います。(拍手)

**大学生(青木)** 私も一応20歳を過ぎて成人をしている身で、これから子どもから大人になる過渡期にあるのですが、世界が変遷していく中で求められている資質、集団主義と個人主義みたいな考え方の違いもお聞きしていく中で、子ども自体にも自分の未来を考える能力を育む力も必要だと思いつつ、でもやっぱり大人から教育されて子どもは育つものなので、今大人の人も、今大人になろうとしている私たちも変わりゆく世界に適応しようと思う力がすごく大切なのかなと思いました。

**竹花** すごい。よくわかっていまして、ありがとうございます。今日は皆さん、本当にありがとうございました。(拍手)

**宮本** 以上でパネルディスカッションを終了いたしますが、ここでパッケンマッケンに今日の感想を改めて伺いましょう。

**マッケン** 僕は子どもを育てる親の立場として、今日の話で思ったのは、親として、自分の子どもを18歳までに立派な人間にしっかり育てようと思いました。やっぱり18歳までは悪いことは悪いと教え、いいことはいいと教え、いいことをしたらほめて、悪いことをしたら叱る。18歳で成人式があるのだったら、18歳は親の子育ての卒業式をやってもいいと思います。

18歳を過ぎてその子どもが社会に出て、いいことがあってほめられるかもしれないけれども、ねたむ人がいることも勉強する。たとえば会社に入ってライバル会社に不利益になる悪いことをやるけれども、それが自分の会社にはいいことにつながるのだというも覚えたりする。だから

社会に出ると悪いことがいいことになったり、いいことが悪いことになったりというのを個人で勉強させようと思います。だから18歳まではしっかりと子どもを育てようと、今日は本当に思いました。

**宮本** しかもこれが是でこれが非であるということの目を養っている親にならなければならないわけですものね。それは絶対に自信がありそうですね。

**マッケン** ありますね。ここでないとと言うと説得力がなくなってしまう。それから小山さんがお金の話も家族ですることが大事だと言っていました、われわれパッケンマッケンは、日米のお金の価値の違いや使い方の違い、また家族でお金の話をしましょうという60~90分の講演会を全国で3年間やらせていただきます。もし関係者の方がいらしたらいつでも呼んでください。

**宮本** 金銭感覚に対する意識が低い若者たちが、お金に関する知識を学ぶ環境をつくってあげなければいけないということですね。

**マッケン** 価値がわからなくなってしまうと困りますからね。

**パッケン** 全体の感想で言うと、今日は本当に議題がいっぱいでした。出発点としていろいろな話が出てきましたが、解決策はそんなに見えていないと思います。皆さんが今日思ったこと、感じたことを持って帰って、自分の家族、コミュニティ、また子どもや孫が通っている学校の先生と相談して、その解決策を探るしかないなと思いました。

でもそこで忘れてはいけないのは、日本の教育、子どもを育てるよさです。僕も海外から来て、感動したことはいっぱいありますし、アメリカの話をお手本としてではなく、参考資料として話しているだけです。それが大事です。

中流階級が全国にいっぱいあって、ピンキリはあっても振れ幅はそこまで大きくない。アメリカは本当に落ちこぼれた人がいっぱいいます。落ちこぼれさせない日本の底上げ教育は本当にすばらしいと思います。ただ底上げ教育が天井をふさぐ教育にならないでほしい。

アメリカは落ちこぼれもいっぱいいますが、本当に群を抜いた、抜きん出る人もいっぱいいるから底は上げながら、飛び抜ける人を飛び抜けるように、それぐらいの自由さもぜひ日本の教育と子育てに持ち込んでいただきたいと思えます。

**宮本** わかりました。ありがとうございました。

## 司会者プロフィール

宮本 隆治氏



1973年 慶応義塾大学文学部卒業後、NHK 入局。「NHK 歌謡コンサート」「思い出のメロディー」「NHK のど自慢」等、数々の名物番組を担当。「NHK 紅白歌合戦」では、1995年から6年連続総合司会を務める。同局エグゼクティブアナウンサーを経て、2007年4月 定年退職を期にフリーアナウンサーに。2009年11月には、「天皇陛下御在位二十年記念式典、並びに国民祭典」の司会を務めた。趣味はラテンダンス、川柳

## 出演者プロフィール

バックンマックン



1997年に共通の知人の紹介で知り合い、バックンマックンを結成。日米お笑いコンビのパイオニア。結成21年。「爆笑オンエアバトル」で頭角を現し、「ジャスト」でお茶の間に浸透。現在は情報番組や英語にまつわる教育バラエティをはじめ、テレビやラジオ、イベントで活躍。2003年にはラスベガスで、2007年にはハリウッドで英語漫才を挑戦。成功をおさめた。講演実績は10年以上。

小山 裕介氏



米国の全寮制高校に16歳から単身留学した後、英国ランカスター大学を卒業。卒業後に世界四大会計事務所の一つであるデロイト・トウシュート・マツのコンサルティング部門において、多国籍企業の組織再編に伴うコンサルティング業務に従事。2010年12月、リスクに特化した世界有数のコンサルティング・ファーム、コントロール・リスクス・グループの日本総代表に33歳で就任。

同社のアジア太平洋地域執行委員会、全世界の共同経営者(シニア・パートナー)委員会のメンバーを務める。日系企業のグローバル展開における経営管理上の様々なリスクの対応支援業務を統括。特に新興国における投融资及びリスクチャリングに関するリスク・アドバイザーとして活動。

マクドナルド山本恵理氏



パラ・パワーリフティング選手。「パラスポーツをやる！支える！楽しむ！自らが障がい者のロールモデルになって、草の根からパラリンピックムーブメントにつなげたい！」生まれつき二分脊椎という障害があり、小学校3年生の時から水泳を始める。その後、カナダに留学しパラアイスホッケーに出会い、2013年から2015年までカナダ女子代表メンバーに選ばれる。

日本に帰国後、現在は2020年パラリンピック出場を目指しパワーリフター「マック」として毎日トレーニングに励む。女子55kg級日本記録保持者。

長谷部 健氏



1972年渋谷区神宮前生まれ。神宮前小学校・原宿中学校卒業  
佼成学園高等学校卒業 専修大学商学部卒業。

株式会社博報堂退職後、NPO 法人 green bird を設立し、まちをきれいにする活動を展開。

原宿・表参道から始まり全国60ヵ所以上でゴミのポイ捨てに関するプロモーション活動を実施。

2003年から渋谷区議会議員(3期12年)2015年4月27日から渋谷区長就任。

武内 彰氏



東京都立日比谷高等学校校長。1961年、東京都生まれ。1987年東京理科大学理学専攻科物理学専攻終了後、物理教師として都立高校の教壇に立つ。都立西高等学校副校長、東部学校経営支援センター統括学校経営支援主事、都立翔陽高等学校校長を経て、2012年より現職。独自の方針で学校改革を進め、2014年より東京大学合格者数が5年連続で全国公立高等学校第1位となる。著書に、「学ぶ心に火をともし8つの教え」(マガジンハウス)、「日比谷高校の奇跡」(祥伝社新書)などがある。

長坂 敏史



慶應義塾大学商学部卒業、マギル大学(カナダ)MBA、公認会計士。ポストン・コンサルティング・グループで戦略コンサルティングに従事。プライス・ウォーターハウス(PW)の日本事務所において青山監査法人の代表社員として、コンサルティング部門の経営に関与すると同時に、様々なコンサルティング・プロジェクトを指揮する。その後、アンダーセン・コンサルティング(AC)に移り、製造・流通業、ならびに、チェンジ・マネジメント部門を担当する。AC退社後、長坂・アンド・アソシエイツ株式会社(N&A)の代表取締役就任、コンサルティングに従事する傍ら、十文字学園女子大学社会情報学部ビジネス情報コースの教授として教鞭をとる。「認定特定非営利活動法人おやじ日本」監事  
現在は同大学名誉教授。

竹花 豊



元東京都副知事 元警察庁生活安全局長 元東京都教育委員  
1973年東京大学法学部卒業後、警察庁に入庁。大分県警察本部長、広島県警察本部長、警察庁生活安全局長、東京都副知事、東京都教育委員を歴任。広島県警本部長時代には暴走族問題に取り組み、大きな成果を上げる。東京都副知事に就任後は、「歌舞伎町浄化作戦」の総指揮、都の青少年健全育成条例の改正などを行ない、一貫して青少年の非行防止、健全育成に関わっている。現在、全国万引防止機構理事長、地域において学校と連携しながら子どもを育てるおやじの会を支援する「認定特定非営利活動法人おやじ日本」の理事長等を務める。著書「子どもたちを救おう」

共同主催 渋谷区  
共 催 読売新聞社 全国読売防犯協力会  
公益社団法人スコーレ家庭教育振興協会

## SPECIAL THANKS

当会の活動にご賛助賜り深く感謝申し上げます。今年度ご賛助賜りました皆さまの本欄でのご紹介(順不同)は、6月4日現在とさせて頂きましたのでご了承賜りたくお願い申し上げます。また、お名前の公表をご希望されておられない方々につきましても本紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

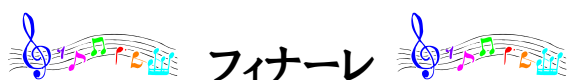
飯田五郎 一越観光(株) 弁護士尾崎毅 木藤繁夫 (株)経真 (株)寿商会 境交通(株)  
三幸交通(株) ジェイワイエスジャパン(株) 渋谷ビル経営者協会 昭栄自動車(株) 省東自動車(株)  
杉並交通(株) (公社)スコーレ家庭教育振興協会 虎門中央法律事務所今井和男 (株)とみひろ  
弁護士中務嗣治郎 日興自動車(株) 日個連事業協同組合 日個連東京都営業協同組合  
西会計事務所 日日交通(株) 日本映像ソフト制作・販売倫理機構 野口修 (有)ひでの工芸  
本州自動車(株) パナソニックシステムソリューションズジャパン(株) 日吉交通(株) 弁護士深澤直之  
不二交通(株) 富士自動車(株) 富士通(株) 保険情報サービス(株) (株)宮本企画  
焼肉苑平間店 (株)リード (株)LOSA

当会設立以来、大変お世話になりました。ご冥福をお祈り申し上げます。



早川 信夫氏 (NHK 解説委員)

星野 仙一氏 (おやじ日本総監督)



「花は咲く」(東日本大震災復興支援ソング)を  
ご出演の皆様、大会ご参加の皆様、おやじ日本合唱団が熱唱！  
協力 大庭泰三氏 一般財団法人 CLASSIC FOR JAPAN



来年(2019年)も是非、おやじ日本全国大会にご参加下さい！！  
設立15周年記念大会を開催致します。

第18回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会

日時:平成31年6月23日(日)午後1時30分～

場所:渋谷区内

## パネルディスカッション資料 (「はじめに」p3～p4)

p28	成人年齢の引き下げ
p29	読売新聞記事
p30	「18歳成人」アンケート調査結果
p31	おやし日本勉強から
p32	中学生・高校生の生活と意識 調査報告書(抜粋)
	—日本・米国・中国・韓国の比較— (2009年3月) 出典:財団法人一ツ橋文芸教育振興会 財団法人日本青少年研究所

## 成人年齢の引き下げ ～18歳成人へ～

### これまでの経緯

- 2015年6月 公職選挙法の改正(選挙権年齢を18歳に引き下げ、民法についても法制上の措置を要請)
- 2016年7月 国政選挙において、初めて18歳選挙権を実施
- 2018年6月 改正民法等成立(→2022年4月1日施行)

### 民法改正等のポイント

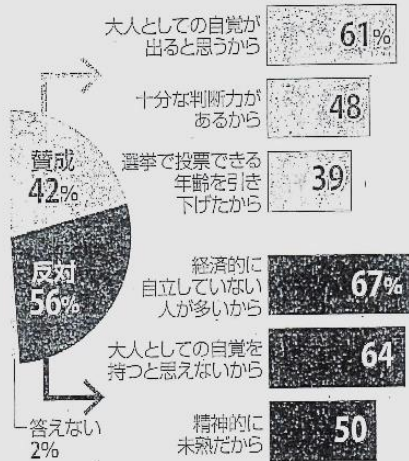
- ・成人年齢(一人で契約をすることができ、親権に服しなくていい年齢)を「18歳」に引き下げ
- ・飲酒、喫煙、公営競技は「20歳未満」禁止を維持
- ・若年成人に対し不当な勧誘があった場合の「契約取消権」を追加(消費者契約法の改正)

### 今後議論される課題

- 飲酒、喫煙、公営競技の禁止年齢の引き下げ(→「18歳未満」)議論
- 少年法の適用対象の引き下げ(→「18歳未満」)議論

# 18歳成人 反対56%

◆成人年齢引き下げへの賛否とその理由  
(理由は複数回答、上位3項目まで)



## 民法改正案 審議入り

成人年齢を20歳から18歳に引き下げる民法改正案が24日、衆院本会議で審議入りした。読売新聞社はこれに先立ち、成人年齢引き下げに関する全国世論調査(郵送方式)を実施した。引き下げに「賛成」と答えた人は42%で、「反対」の56%を下回った。年代別でも全ての年代で「反対」が5割を超えており、国民的理解が深まっていないことがわかった。〈関連記事33面〉

本社世論調査

## 「経済的自立せず」 「大人の自覚ない」

政府・与党は同法案を今国会で成立させ、2022年4月に施行したい考えだ。成立すれば、約140年ぶりの成人年齢見直しとなる。

今回の世論調査は3月13日と4月18日、全国の有権者3000人を対象に実施し、1986人から回答を得た(回答率65%)。16年に20歳以上を対象に実施した調査では「賛成」45%、「反対」51%、18、19歳対象の調査では「賛成」35%、「反対」64%だった。

今回調査で、引き下げに賛成の理由(複数回答)は「大人としての自覚が出る」61%が最多で、18と20歳に限ると、「十分な判断力がある」47%がトップ。一方、反対の理由(同)では「経済的に自立していない人が多い」67%が最も多かった。法改正に「関心がある」は75%。女性が結婚できる年

齢を、現在の16歳から男性と同じ18歳でそろえることに「賛成」は81%に達した。現在、20歳から認められているこのうち、18歳から認めてもよいと思うもの(複数回答)は「親の同意がない結婚」53%が最も多く、次いで「飲酒」20%。このほか「喫煙」13%、「競馬、競輪などの公営ギャンブル」10%などだった。政府は改正民法施行後も飲酒や喫煙は公営ギャンブルは20歳未満禁止を維持する。

成人年齢の引き下げには、国民的理解が欠かれない。政府には制度移行の狙いをきめ細かく周知するとともに、社会的混

## 理解促す丁寧な説明を

乱を抑制する策をしっかりと講じることが求められる。政府は成人年齢引き下げにより「若者の社会参画の時期を早め、社会に大きな

ドの契約を結べるようになるため、悪質商法の被害増加が懸念される。政府は、不当契約の取り消し規定を盛り込んだ消費者契約法改正案も今国会に提出しており、近く審議入りする見通しだ。ただ、立憲民主など野党6党は、学校法人「森友学園」を巡る問題などを理由に国会審議を拒否している。24日の衆院本会議も野党欠席のまま民法改正案の趣旨説明が行われた。

は多くない。(政治部 鈴木絵里奈)

「18歳以上」となっている。ただ、日本では「20歳成人」が約140年にわたって定着してきただけに、丁寧な説明が必要だ。

民法改正案では、女性の婚姻年齢を男性と同じ「18歳」に統一するなど線引きが変わる制度と、飲酒や喫煙の「20歳未満禁止」などの線引きが維持される制度が混在する。政府は混乱回避のため4月16日に省庁横断の対策会議を開いたが、具体的な検討はこれからだ。同法案は22年4月の施行を予定する。残された時間は多くない。

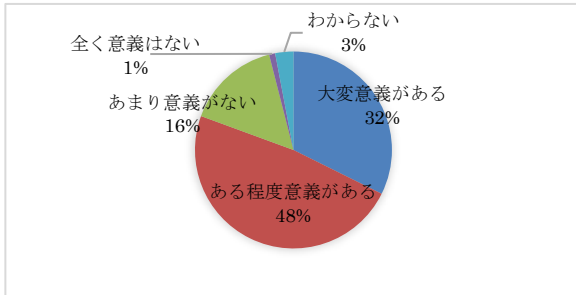
読売新聞  
2018年4月25日(水)

# 「18 歳成人」アンケート調査結果

## 第 40 回渋谷区くみんの広場(2017/11/4、5)来場者を対象に実施

回答者 200 名

< 「18 歳選挙権」について、どのように思われますか? >

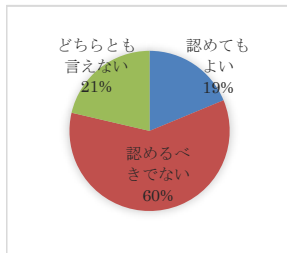


アンケート分布表

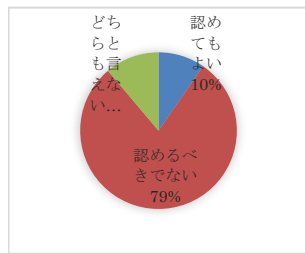
住まい	渋谷区	96	その他 23 区	45	その他東京都	15
	埼玉県	7	神奈川県	16	その他	6
年代	20 代	15	30 代	78	40 代	58
	60 代	17	70 代~	14	10 代	4
50 代	6					
性別	男性	58	女性	132		
職業	会社員	66	教職員	2	公務員	8
	学生	15	主婦	71	その他	13
自営業	16					

< 「18 歳で成人」となった場合に関連して次のような問題も論じられてます。あなたはどのように思いますか? >

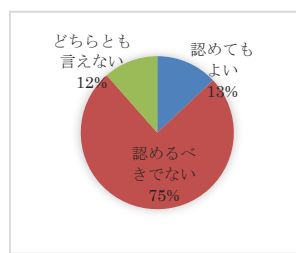
<18 歳からの飲酒>



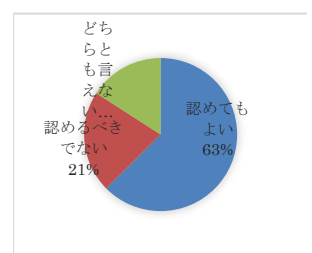
<18 歳からの喫煙>



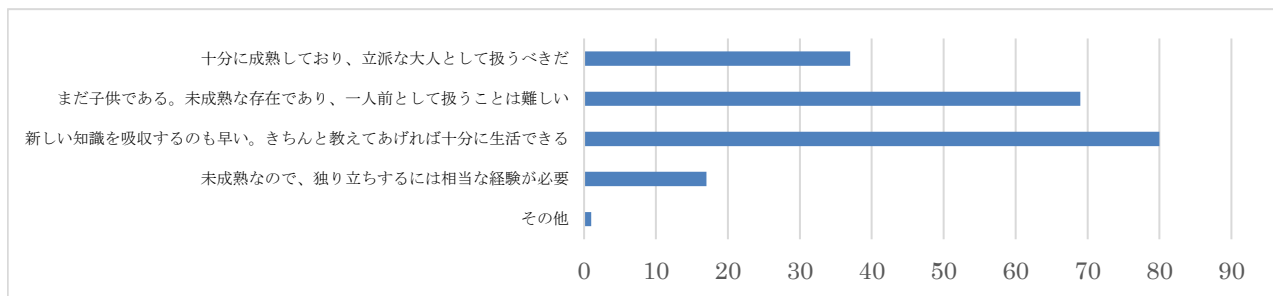
<クレジットカード等の契約>



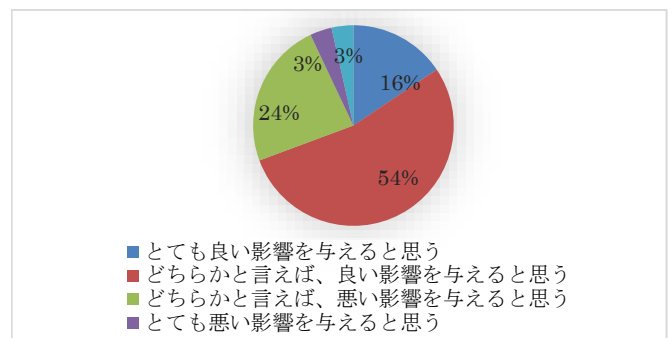
<少年法の対象 18 歳引き下げ>



<あなたは、今の我が国の 18 歳について、全体的にどう感じていますか? >



< 「18 歳で成人」とすることは、わが国の家族の在り方や、学校をはじめとする社会の在り方どのような影響を与えますか? >



## これまでのおやじ日本の勉強会から（その1）

Mr. Patrick Hu （EY 税理士法人 シニアマネージャー 米国公認会計士）

○カナダの中学校では生徒が「自分の考えを話す」よう求められる。また、高校から大学に行く時にストレートに大学に進んだりせず、一定期間、空くこともよくある。選択肢は広く、それぞれが自立して選んで進んでいく。

○今の若い人は、とても速いスピードで成長していく。コンピュータの使い方など怖いくらい進んでいる。我々は若い人を信じてあげなければならぬ。信じて仲間に入れてあげなければいけない。

○18歳の時点では知識（knowledge）が必要だが、我々は経験（experience）を与えることができる。学校や先生に全てを求めるべきではない。社会人とのコンビネーションも重要なのではないか。

○18歳から20歳は Young adult から、責任をとることができる Adult への transition period（移行期間）といえるかもしれない。



## これまでのおやじ日本の勉強会から（その2）

加藤諦三先生 （早稲田大学名誉教授）

○アメリカの場合、小・中学校では「あなたはどう思う？」ということが問われるし、授業の中で思ったことを言い、議論しても怒られることは無い。

名門校と言われる学校に合格しても、より自分に合っていると考えられる学校が別があれば、そちらに入学する子もいる。

いろんな学校がたくさんあって、各人が各人の判断で選んでいる。

○アメリカは、学歴によって、ポストも収入も大きく変わる「日本に比べて学歴社会」であると言って良いが、これが心理的に、日本のように問題にされてはいない。

18歳までに、それぞれの子がいろいろ考え、議論して、自分で判断して決めていく。

18歳までの教育の在り方が全く違っている。

○皆、小さな頃から「At your own risk!（あなたの責任で!）」、「It's up to you!（それはあなた次第。あなたが決めること!）」と学校も家庭でも言われて育っている。

そういう教育が行われている社会なのである。



中学生・高校生の生活と意識調査報告書(抜粋)

日本・米国・中国・韓国の比較

出典：財団法人一ツ橋文芸教育振興会 財団法人日本青少年研究所（2009年3月）

表1 調査報告

	日本	アメリカ	中国	韓国
実施時期	2008年9月から10月	2008年9月から10月	2008年9月から10月	2008年9月から10月
調査学校数	中学校9校 高校10校	中学校6校 高校12校	中学校10校 高校10校	中学校43校 高校42校
調査地域	青森県 栃木県 東京都 神奈川県 石川県 静岡県 滋賀県 兵庫県 岡山県 広島県	Durham, NC DeWitt, NY Tulsa, OK Nashville, TN Salem, OR Indianapolis, IN Charlotte, NC Idaho Falls, ID Liberty, MO Elgin, IL Watertown, NY Gallup, NM Eugene, OR St. Paul, MN	北京市 黒竜江省 陝西省 湖北省 浙江省	ソウル 京畿道 忠清道 全羅道 慶尚道 江原道
サンプル数	中学校 807 票 高校 1210 票	中学校 852 票 高校 1003 票	中学校 1001 票 高校 1128 票	中学校 1133 票 高校 1143 票
調査方法	集団質問紙法(学校を通じてアンケート用紙を配布し、回収)			

16.進路について

	中学生				高校生			
	日本	米国	中国	韓国	日本	米国	中国	韓国
①全くそう	17.3	63.0	14.5	25.0	19.3	66.3	14.3	24.3
②まあそう	34.7	23.0	31.7	53.1	41.5	22.9	29.1	53.2
③あまりそうでない	32.6	5.5	31.9	16.5	31.6	5.6	33.2	16.1
④全くそうでない	15.0	2.9	21.2	5.4	7.2	4.0	22.9	6.4
無回答	0.4	5.6	0.7	0.0	0.4	1.2	0.5	0.0

2.私は人並みの能力がある

	中学生				高校生			
	日本	米国	中国	韓国	日本	米国	中国	韓国
①とてもそう思う	13.0	55.6	49.4	7.6	8.4	61.1	41.0	5.6
②まあそう思う	40.4	23.3	35.2	66.1	44.1	27.9	44.1	63.4
③あまりそう思わない	32.2	4.3	8.0	21.6	37.7	4.5	10.5	25.5
④全くそう思わない	13.4	2.0	6.8	4.4	9.0	3.1	3.8	5.2
無回答	1.0	14.8	0.6	0.3	0.8	3.4	0.6	0.3

5.自分はダメな人間だと思う

	中学生				高校生			
	日本	米国	中国	韓国	日本	米国	中国	韓国
①とてもそう思う	20.8	4.7	3.4	7.9	23.1	7.6	2.6	8.3
②まあそう思う	35.2	9.5	7.7	33.8	42.7	14.0	10.1	37.0
③あまりそう思わない	31.8	16.2	24.3	44.6	25.5	19.7	34.1	43.2
④全くそう思わない	11.5	55.4	63.6	13.4	8.0	55.3	52.7	11.1
無回答	0.7	14.2	1.0	0.3	0.7	3.4	0.5	0.4

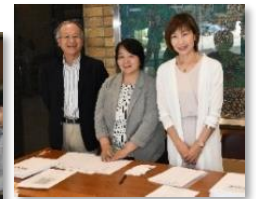
## ★オープニングアトラクション

本大会でも東日本大震災被災者支援のため制作されたヴァイオリンを使って弦楽四重奏曲 12 番「アメリカ」第 1 章 (ドヴォルザーク作曲)を東京芸術大学音楽部付属音楽高等学校生 (1stヴァイオリン橘和美優さん、2ndヴァイオリン東條太河さん、ヴィオラ衛藤理子さん、チェロ岩崎弓夏さん) が演奏。会場から大きな拍手が送られました。

なお、この企画については大庭泰三氏及び一般財団法人 CLASSIC FOR JAPAN のご協力を頂きました。



## ★受付の様子



## ★控室で打合せ



## ★大会終了後の交流会ではご尽力頂いた多くの方々へ心からの感謝を込めて・・・



## 18歳成人、大人の姿勢にも課題

### ●「おやじ日本」第17回全国大会

認定NPO法人「おやじ日本」(理事長、竹花豊元東京都副知事)は6月24日、東京都渋谷区の明治神宮会館で第17回全国大会を開催した。約350人が参加。選挙権年齢に次いで成人年齢自体も引き下げられることを受けて、テーマを「18歳はもう大人!?」と設定し、当事者である高校生や大学生も交じえて話し合った(写真)。

### 個と組織の利点をミックスして

まず竹花理事長が、お笑いコンビ「バックンマツクン」にインタビューした。米国人のバックンは、褒められても謙遜する日本人の文化を好きだとしながらも、「ずっと謙遜していると、自己暗示で『自分は駄目人間だ』と思ってしまう。米国人は、できなくても『できる』と言う」と話し、大人が手本になつて褒められたら素直に喜ぶよう勧めた。日本人のバックンが、ダンスの仕事に依頼されても即決で「できますよ」と引き受けるバックンに後で聞くと「仕事(の日)までに何とかする」と答えたエピソードを明かすと、バックンは「日本語の『できる』は現在形と未来形が一緒」と笑わせた。

■2018年(平成30年)7月13日 内外教育 第3種郵便物認可



米国では成人年齢を18歳としている州が多く、中高生からアルバイトをするなど、経済的にも自立が徐々に求められる。しかしバックンは、日本のように親元で安心して部活動などに打ち込める環境も否定せず、個人差を認めるべきだとした。デイスカッションでは、高校から米英に留学し、多国籍企業で働いてきたコントロール・リスク



ス・グループ  
日本総代表兼  
シニア・パー  
トナーの小山  
裕介氏が「若  
者のエネルギー  
は高まつて  
おり、足りな  
いとか前に踏  
み出せていな  
いとは感じて  
いない。大人  
の社会が、自  
分たちの決め  
たルールを押

し付け過ぎているのではないかと指摘すると、バラ・パワーリフティング選手のマクドナルド山本恵理氏も「今の若者たちには選択肢が多く、障害者にも健常者と同じように開かれていくのに、親が規制している」と苦言を呈した。

なかなか日本の若者が海外に出ようとならないのは確かだ。しかし、出身校であるハーバード大学でも日本人留学生が年々減少しているというバックンは「いい意味で、日本で満足しているからだ。プラスに考えていい。もう少し海外に目を向けることは重要だが、『今の若者は……』という言葉は古代エジプトの象形文字にも書いてある。全部を若者のせいにはしないでほしい」と述べた。

おやじ日本監事で十文字学園女子大学名誉教授の長坂敏史氏は「日本は『情の文化』だが、どうしても受け身になる。理想がないと感情に流される」と指摘し、18歳成人に当たっては知性と感情の教育を両立させるよう訴えた。

近所の公立小学校に通わせていた子どもを5年生からインターナショナルスクールに転校させたバックンが、両校の発表会を比較しながら、自由度は少ないがレベルは高い公立小と、下手でも自信満々で楽しそうなインターナショナルスクールの「どっちがいいか。僕は両方できる最強の子どもに育てたい」と問い掛けると、東京都立日比谷高校長の武内彰氏は「もう少し個を発信しながらも、組織的にも対応できるという両方をミックスしたものが世界標準になっていくとうれしい」と応じた。

(渡辺敦司||教育ジャーナリスト)

## 未来教室平成30年度

(7月12日現在)

第1回
日時 平成30年5月21日(月)13:40～15:30
学校名 渋谷区立渋谷本町学園中学校
実施学年 2年生2クラス(74名)合同
課程等 総合的な学習の時間
授業内容 マナー教室 ～職場体験の事前学習～
協力企業 リーガロイヤルホテル東京
第3回
日時 平成30年6月8日(金)
学校名 北区立滝野川紅葉中学校
実施学年 2年生4クラス(159名)合同
課程等 総合的な学習の時間
授業内容 マナー教室 ～職場体験の事前学習～
協力企業 リーガロイヤルホテル東京
第5回
日時 平成30年6月26日(火)13:30～13:30
学校名 渋谷区立松濤中学校
実施学年 2年生2クラス(72名)合同
課程等 総合的な学習の時間
授業内容 マナー教室 ～職場体験の事前学習～
協力企業 リーガロイヤルホテル東京
第7回
日時 平成30年7月9日(月)10:40～12:15
学校名 文京区立汐見小学校
実施学年 3年生3クラス(85名)合同
課程等 理科
授業内容 チョウの楽しさ
協力企業 日本鱗翅学会会員・日本蝶類科学学会会員
第9回
日時 平成30年7月14日(土)9:45～11:35
学校名 杉並区立東原中学校
対象学年 1～3年生 各2クラス(203名)
課程等 総合的な学習の時間
授業内容 キャリア教育「生き方を学ぶ講座」 ～企業人の話を聞く会～
協力企業 読売新聞東京本社 日本水産株式会社 ヤマト運輸株式会社 KCJ GROUP株式会社 あいおいニッセイ同和損害保険調査株式会社 三井住友カード株式会社

第2回
日時 平成30年6月6日(水)8:30～9:20
学校名 世田谷区立弦巻中学校
実施学年 1～3年生各学年3クラス(357名)合同
課程等 総合的な学習の時間
授業内容 マナー講習会
協力企業 リーガロイヤルホテル東京
第4回
日時 平成30年6月18日(月)13:30～15:20
学校名 目黒区立大鳥中学校
実施学年 2年生4クラス(122名)合同
課程等 総合的な学習の時間
授業内容 マナー教室 ～職場体験の事前学習～
協力企業 リーガロイヤルホテル東京
第6回
日時 平成30年7月7日(火)13:30～15:20
学校名 目黒区立大鳥中学校
実施学年 1年生4クラス(150名)合同
課程等 総合的な学習の時間
授業内容 職業講話～将来の職業を考える～
協力企業 株式会社ゼンショーホールディングス
第8回
日時 平成30年7月12日(木)13:30～15:20
学校名 新宿区立西早稲田中学校
実施学年 2年生4クラス(123名)合同
課程等 総合的な学習の時間
授業内容 マナー教室～職場体験の事前学習～
協力企業 リーガロイヤルホテル東京



## ◆◆活動報告◆◆

### 平成29年度

#### ☆第4回定例理事会 3月24日(土)

##### 審議事項

平成30年度事業計画について

平成30年度事業予算について 他

##### 報告事項

平成29年度中間決算メモについて

未来教室について

防災教室について

iS運動について

83運動について

第3回おやじ日本山形大会決算報告について 他

### ☆運営委員会

1月度運営委員会 1月27日(土)

平成30年互礼会決算

平成30年度行政財産使用許可申請

ホームページドメイン更新 未来教室 防災教室

iS運動 83運動 第17回全国大会 他

2月度運営委員会 2月17日(土)

未来教室 防災教室 iS運動 83運動

第17回全国大会 平成30年度事業計画 他

3月度運営委員会 3月24日(土)

平成29年度第4回定例理事会報告

平成30年度事業計画 平成30年度事業予算

未来教室 iS運動 83運動 防災教室

第17回全国大会 他

### ☆第17回全国大会実行委員会

第2回実行委員会 1月27日(土)

第3回実行委員会 2月17日(土)

第4回実行委員会 3月24日(土)



### 賛助・寄附のお願い

おやじ日本は活動の趣旨に賛同して下さる方々に賛助・寄附を募っております。皆さまからのご理解とご支援を頂きたく、お願い申し上げます。おやじ日本は、東京都から認定NPO法人として認定されていますので、おやじ日本に対して寄附または贈与された方につきましては、所得税、法人税または相続税上の課税について、寄付金控除等の特例が適応されます。賛助のご協力を頂ける方は下記振込先にご入金をお願い申し上げます。

**みずほ銀行新橋中央支店 普通2059554 口座名 おやじ日本 ゆうちょ銀行 00150-9-631618 口座名 おやじ日本**  
必要とされる方には領収証を発行させていただきます。ご理解、ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

### 【発行】 認定特定非営利活動法人おやじ日本

住所 〒150-0042 渋谷区宇田川町5番2号 渋谷区役所神南分庁舎3階

TEL&FAX 03-3462-7113 URL <http://oyaji-nippon.org/>

E-mail [desk@oyaji-nippon.org](mailto:desk@oyaji-nippon.org)

事務局 小山 洋子 (担当理事)

丸山 容子 大喜 滋子 小菅 操

編集協力 京須和恵 片山潮 写真提供 小川写館

\*ここに記載の内容は全て無断転載を禁じます

### 平成30年度

#### ☆平成30年度総会 6月24日(日)

##### 審議事項

平成29年度事業報告について

平成29年度決算報告について

##### 報告事項

平成30年度事業計画について

平成30年度予算について

事務局職員について 他



#### ☆第1回定例理事会 5月26日(土)

##### 審議事項

平成29年度事業報告について

平成29年度決算報告について 他

##### 報告事項

平成30年度正会員名簿について

事務局職員について

第17回全国大会について 他

### ☆運営委員会

4月度運営委員会 4月14日(土)

未来教室 防災教室 iS運動 83運動

第17回全国大会 他

5月度運営委員会 5月26日(土)

未来教室 防災教室 iS運動 83運動

第17回全国大会 他

6月度運営委員会 6月16日(土)

未来教室 防災教室 iS運動 83運動

第17回全国大会 他

7月度運営委員会 7月6日(金)

第17回全国大会報告 第17回全国大会決算報告 他

### ☆第17回全国大会実行委員会

第5回実行委員会 4月14日(土)

第6回実行委員会 5月26日(土)

実行委員会報告会 6月16日(土)

